

T6J

2.4GHz S-FHSS

Frequency Hopping Spread Spectrum



取扱説明書

注意

- 製品をご使用前に必ず本書をお読みください。
- 本書はいつでも活用できるように大切に保管してください。

保証書について

- セットに保証書が付属しています。お買上げ時、保証書に販売店印とお買上げ年月日の記入手続きをお受けください。

1M23N24804

模型用

Futaba[®]

Digital Proportional R/C System

このたびは **FHSS 6J-2.4GHz** システムをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用の前に、この取扱説明書をお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
また、お読みになられたあとも大切に保管してください。

* FHSS : Futaba Frequency Hopping Spread Spectrum の略。Futaba 2.4GHz 製品を示します。

●リンク操作について

この 6J-2.4GHz システムの場合、送信機は固有の ID 番号を持ち、使用する受信機にこの ID 番号を読み込ませること（リンク操作）により操作が可能となります。受信機を買い足した場合や別の送信機で使用する場合は再度リンク操作が必要となります。リンク操作 (P18) をご覧ください。

●モデルタイプについて

この T6J-2.4GHz 送信機には飛行機用およびヘリ用の機能が搭載されています。ミキシングタイプ選択機能 (P48) で機体に合わせてモデルタイプを選択してください。機能マップは飛行機用 (P32) またはヘリコプター用 (P34) をご覧ください。また、飛行機用にはフラップロン (P52)、V テール (P54) およびエレボン (P55) の各種ウイングタイプが、ヘリ用には 4 種類のスワッシュタイプ (P68) が搭載されています。まず最初に、模型のタイプに合ったウイングタイプやスワッシュタイプを選択してください。

本書で使用されている専門用語については「用語説明」(74 ページ) をご覧ください。

用途、輸出、改造等に関するご注意

1. 模型用以外に使用しないで下さい。

本説明書に記載されている製品は、用途が模型用に限定されています。

2. 輸出する際のご注意

- (イ) 本製品を海外に輸出する場合、輸出する国の電波法で認可されていないと使用することはできません。
- (ロ) 模型以外の用途で使用する場合、輸出貿易管理令で規制される場合があり、輸出許可申請等の法的手続きが必要となります。

3. 改造、調整、部品交換した場合のご注意

本製品を弊社以外で改造、調整、部品交換などの手が加えられた場合、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

- 本書の内容の一部または全部を無断で転載しないでください。
- 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容は万全を期して作成していますが、万一ご不明な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がございましたら弊社までご連絡ください。
- お客様が機器を使用された結果につきましては、責任を負いかねることがございますのでご了承ください。

目次

安全にお使いいただくために

- 表示の意味 4
- 飛行時の注意 4
- 充電電池取扱上の注意 5
- 保管・廃棄時の注意 6
- その他の注意 7

お使いになる前に

- 特長 8
- セット内容 9
- 各部の名称／取り扱い方 10
- 送信機の操作と各舵の動き 16
- リンク操作 18
- 距離テスト
(パワーダウンモード) 19

組込／調整方法

- 受信機、サーボ等の接続 20
- 受信機の搭載 22
- 基本セッティング 25

機能マップ

- 機能マップ 32

機能説明

共通機能 (ACRO/HELI)

- [MODEL] モデルセレクト 36
- モデルネーム 36
- [REVR] サーボリバース 37
- [D/R] デュアルレート 38
- [EXPO] エクスポネンシャル 39
- [E.P.A] 舵角調整 40
- [TRIM] トリム 41
- [STRM] サブトリム 42
- [F/S] フェールセーフ 43
- [TRNR] トレーナー機能 44
- [TIMR] タイマー 46
- [PARA] パラメータ 47
- [REST] データリセット 47
- [TYPE] ミキシングタイプ選択 48
- [TCUT] スロットルカット 49
- [BF/S] バッテリー F/S ON/OFF 49
- [BATT] ローバッテリー警告電圧 50
- [STCK] スティックモード 50

飛行機用機能 (ACRO)

- [PMX1-2] プログラムミキシング 51
- [FLPR] フラップロン 52
- [FLTR] フラップトリム 53
- [V-TL] V テール 54
- [ELVN] エレボン 55
- [T-CV] スロットルカーブ 56
- [P-CV] ピッチカーブ 57

ヘリ用機能 (HELI)

- [N-TH] スロットルカーブ (N) 58
- [N-PI] ピッチカーブ (N) 59
- [I-TH] スロットルカーブ (I) 60
- [I-PI] ピッチカーブ (I) 61
- [HOLD] スロットルホールド 62
- [H-PI] ピッチカーブ (H) 63
- [REVO] リボリューション
ミキシング 64
- [GYRO] ジャイロミキシング 65
- [SW-T] スワッシュ→スロットル
ミキシング 66
- [RING] スワッシュリング 67
- [SWSH] スワッシュ設定 68
- [DELY] デイレイ 69
- [HOVP] ホバリングピッチ 70

その他の機能の使い方

- ノンスリップアジャスタブル
レバーヘッド 71
- 送信機用充電バッテリー 71

参考

- 規格 72
- オプションパーツ (別売) 73
- 用語説明 74
- 修理を依頼されるときは 75
- データシート (巻末)

安全にお使い
いただくために

お使いになる
前に

組込/
調整方法

機能マップ

機能説明

その他の機能の
使い方




参考

安全にお使いいただくために

いつも安全に製品をお使いいただくために、以下の点にご注意ください。

表示の意味


本書の中で次の表示がある部分は、安全上で特に注意する必要のある内容を示しています。

表示	意味
 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者または他の人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される場合。
 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者または他の人が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。または、軽傷、物的損害が発生する可能性が高い場合。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者または他の人が重傷を負う可能性は少ないが、傷害を負う危険が想定される場合。ならびに物的損害のみの発生が想定される場合。


図記号：  ; 禁止事項  ; 必ず実行する事項


飛行時の注意

警告


 飛行中は送信機の内蔵アンテナ部分を手で覆ったりしない。また、導電性のパーツを取り付けない。

■送信出力が極端に低下します。


 他の 2.4GHz システム等からのノイズの影響により電波が届かなくなる場合があります。ご使用前の動作テストや使用中にこのような状況がある場合は使用を中止する。

 操作中、送信機を他の送信機や携帯電話等の無線装置に接触させたり近づけたりしない。


■誤動作の原因となります。

 飛行中、送信機の側面（送信機の電波の弱い方向）を機体方向に向けない。


■指向性があり送信出力が一番弱くなります。（内部アンテナの構造上、送信機が機体に正対する方向が電波が最大となります。）

 雨の日、風の強いときや夜間は絶対に飛行させない。


■装置内部に水が入り誤動作したり、操縦不能となったり、見失ったりして墜落します。

 フックバンドを首にかけたままで、エンジンのスタート操作をしない。


■フックバンドが回転するプロペラへ吸い込まれると大ケガとなります。

 疲れているとき、病気のと看、酔っ払っているようなときは飛行させない。

■集中力を欠いたり、正常な判断ができないため思わぬ操作ミスをおかして墜落します。

 パワーダウンモードの状態では絶対に飛行させない。

■距離テスト専用のパワーダウンモードの場合、飛行範囲が極端に狭くなり墜落します。

 次のような場所では飛行させない。

- ・人の近くや上空
- ・家屋、学校、病院などの人の集まる場所の近く
- ・高圧線、高い建造物または通信施設の近く

■電波の混信や障害物などにより墜落したり、万一、プロポや機体の故障により墜落した場合、人命を奪ったり、家屋等の損傷をひきおこします。

! 安全のため、常に機体が視認できる状態で飛行する。

- 建物等の大きな障害物の背後への飛行は見えないばかりでなく、通信品質も低下し機体のコントロールができなくなる恐れがあります。

! 飛行前には必ずプロポのテストを実行する。

- プロポ、機体等のどこかに一つでも異常があれば墜落します。

*エンジン始動前に、各舵を動作させてみて、各舵が追従動作することを確認します。追従動作しない場合や異常な動作をする場合は飛行しないでください。

! 安全上、必ずフェイルセーフ機能の設定を行なう。

- スロットルのフェイルセーフ設定は、飛行機の場合最スロー、ヘリの場合はホバリング位置よりスロー側になるように設定します。混信等で正しく電波を受信できなくなった場合に、フルハイで墜落すると大変危険です。

! フライト時は必ず送信機の設定画面を初期画面に戻しておく。

- フライト中にエディットキーに触れて、誤入力すると大変危険です。

! 飛行準備中に送信機を地上におく場合、送信機を立てて置かない。

- 送信機が風などで倒れ、スティックが操作状態となり、不意にプロペラが回転すると大ケガとなります。

! 使用中、使用直後には、エンジン、モーター、FET アンプ等には触れない。

- 高温になっているためヤケドします。

<電源スイッチを入れるとき>

! 送信機のスロットルスティックを最スローの状態とした後、

1. 送信機の電源スイッチを入れてから
2. 受信機側の電源スイッチを入れる

<電源スイッチを切るとき>

! エンジンまたはモーターを停止させた後、

1. 受信機側の電源スイッチを切ってから
2. 送信機の電源スイッチを切る

- 操作の順番を逆にすると、不意にプロペラやローターが回転し、ケガをします。

*最スロー：エンジンまたはモーターが一番低速回転となる方向。

! プロポの調整を行うときは、必要な場合を除き、エンジンを停止させて行う。

- 不意にプロペラやローターが高回転となった場合ケガをします。

! 電動機の場合、不意の操作により、プロペラやローターが高回転となりやすいので注意する。

- 不意にプロペラやローターが高回転となった場合ケガをします。

■また、室内でプロペラやローターを回すことは危険です。

充電電池取扱上の注意

(充電電池を使用する場合のみ)

! 警告

! 充電電池を使用する場合、飛行前に必ず充電する。

- 飛行中に電池がなくなると墜落します。

! プロポ用充電電池の充電は専用充電器または別売りのプロポ用の急速充電器を使用する。

- 規定値を越える充電は、異常発熱、破裂、漏液等により、ヤケド、火災、ケガ、失明等を引き起こします。

⚠ 注意

❌ 市販の単3型充電電池は使用しない。

■急速充電時、バッテリーホルダーの接点部分が異常発熱し装置が破損したり充電できない場合があります。

❌ 充電電池の接続コネクタの端子をショートさせない。

■ショートすると発火、異常発熱等によりヤケドしたり火災を引き起こします。

❌ 充電電池は、落下させるなどの強い衝撃をあたえない。

■ショートして異常発熱したり、壊れて電解液が漏れると、ヤケドしたり、化学物質による被害を受けます。

電池の電解液について

電池内の電解液は強アルカリ性のため、電解液が目に入ったときは、失明の恐れがあります。こすらずに、すぐにきれいな水でよく洗い流した後、直ちに医師の治療を受けてください。また、電解液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

保管・廃棄時の注意

⚠ 警告

❌ プロポ、電池、機体等を幼児の手の届く所に放置しない。

■触って作動させたり、電池をなめたりすると、ケガをしたり、化学物質による被害を受けます。

❌ 電池を火の中に投入したり、加熱したりしない。また、分解したり、改造したりしない。

■破裂、異常発熱、漏液等により、ケガ、ヤケド、失明等を行います。

❗ 電池を保管する場合、ご使用の電池に合った方法で保管してください。

■保管方法については、電池の取扱説明書を参照してください。誤った方法で保管すると、正常に充電できなったり、電池寿命の低下の原因となります。

■ニッケル水素電池の場合、放電が浅い状態で充電を繰り返すことが多いと、メモリー効果によって、充電を行っても使用時間が極端に減少することがあります。

⚠ 注意

❌ プロポは次のような場所に保管しない。

- ・極端に暑いところ（40℃以上）、寒いところ（-10℃以下）。
- ・直射日光があたる場所。
- ・湿気の多い場所。
- ・振動の多い場所。
- ・ほこりの多い場所。
- ・蒸気や熱があたる場所。

■上記のようなところに保管すると、変形や故障の原因となります。

❗ 長期間使用しない場合は、電池を送信機や機体から取り出して、湿気の少ない場所に保管する。

■そのまま放置すると、電池の漏液により、送信機や機体の性能や寿命を低下させます。

充電電池のリサイクルについて

使用済みニッケル水素電池等の充電電池は貴重な資源です。端子部分にテープを貼るなどの処理をして、電池リサイクル協力店にご持参ください。

その他の注意

⚠ 注意

⊘ 燃料、廃油、排気等を直接プラスチック部分にかけない。

- そのままにしておくと、プラスチックが侵され、破損します。

⚠ ラジコン保険に加入する。

- ラジコン保険の加入申し込みはラジコン操縦士登録代行店にお問い合わせください。

⚠ 送信機、受信機、サーボ、FET アンプ、電池その他オプションパーツは、必ず Futaba 純正品の組み合わせで使用する。

- Futaba 純正品以外との組み合わせにより発生した損害等につきましては、当社では責任を負いません。取扱説明書およびカタログに記載されているものを使用してください。

お使いになる前に

特長

T6J-2.4GHz 送信機（飛行機用／ヘリ用）

● FHSS 方式（S-FHSS/FHSS 切替）6 チャンネル送信機

T6J-2.4GHz 送信機は S-FHSS 方式受信機 R2006GS/R2104GF、FHSS 方式受信機 R2004GF 等と合わせてご使用が可能です。

*ただし、FHSS 方式受信機との組み合わせの場合、フェイルセーフ機能が使用できないため、空用の用途にはおすすめできません。

● 2.4GHz 帯スペクトル拡散方式採用

● 内蔵アンテナ

● 送信機固有の ID コード

他の FHSS システムからの妨害を防ぎます。

● 見やすいセグメント方式液晶パネル／簡単操作のエディットキーを採用

表示文字を大きく見易くしました。機能の選択、データの入力、およびデータの確認が簡単に行えます。

● デジタルトリム

飛行中に素早いトリム調整が可能です。トリムセンターで音が変わります。

● 15 モデルメモリー

送信機本体に 15 機分のモデルメモリーが搭載されています。モデルメモリーの内容はバッテリーバックアップ不要なメモリー素子に保存されます。

● モデルタイプが選べる

モデルに合わせて、飛行機用、ヘリコプター用のミキシングタイプが選べます。また、飛行機用にはフラップオン、Vテールおよびエレボンの各種ウイングタイプが、ヘリ用には 4 種類のスワッシュタイプが搭載されています。

● レバーヘッドの長さ調整

スティックのレバーヘッドの長さが調整できます。

● トレーナー機能

専用のトレーナーコード（別売）で先生側、生徒側を接続して使用します。

R2006GS 受信機

● S-FHSS 方式 6 チャンネル

R2006GS 受信機は S-FHSS/FHSS 方式対応の送信機との組み合わせでご使用になれます。（S-FHSS/FHSS 自動認識）

● ダイバーシティ方式アンテナ採用

● フェイルセーフ／バッテリーフェイルセーフ機能搭載（スロットルチャンネル）

セット内容

6J-2.4GHz 飛行機用／ヘリ用セットには下記のものが付属します。
セットによって内容が異なります。

	6J-2.4GHz 飛行機用／ヘリ用 (TR セット)
送信機	T6J-2.4G (飛行機用またはヘリ用)
受信機	R2006GS
その他	受信機用スイッチ 保証書、取扱説明書 (本書)

お
使
い
に
な
る
前
に

注意：Futaba FHSS システムは Futaba FASST システムの送受信機との組み合わせでは動作できません。FHSS システムの送受信機の組み合わせでお使いください。Futaba FASST システムと Futaba FHSS システムとの互換性はありません。

各部の名称／取り扱い方

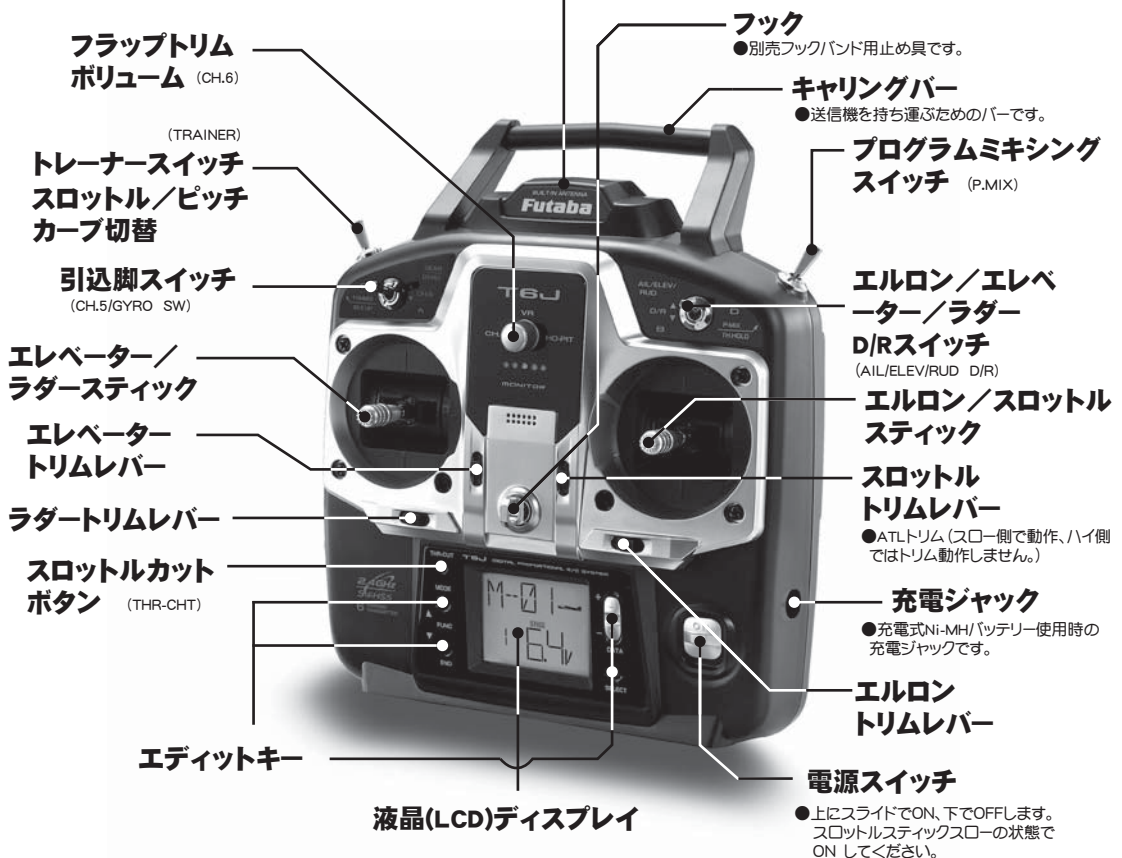
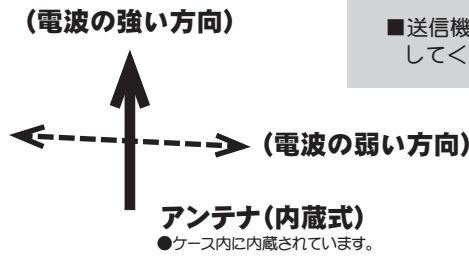
送信機 T6J-2.4GHz 飛行機用

警告

下図の送信機の電波の弱い方向(送信機側面)が機体に向かないような状態で操作する。

■送信機はできるだけ機体に正対させて操作してください。

お使いになる前に



警告

飛行中、送信機のアンテナ部(内蔵)を手で覆わない。また、送信機のアンテナ部に導電性の板やステッカーなどを貼らない。

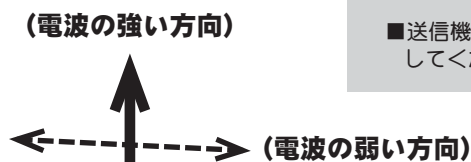
■電波の出力が弱くなるため、受信距離が短くなり危険です。

送信機 T6J-2.4GHz ヘリ用

警告

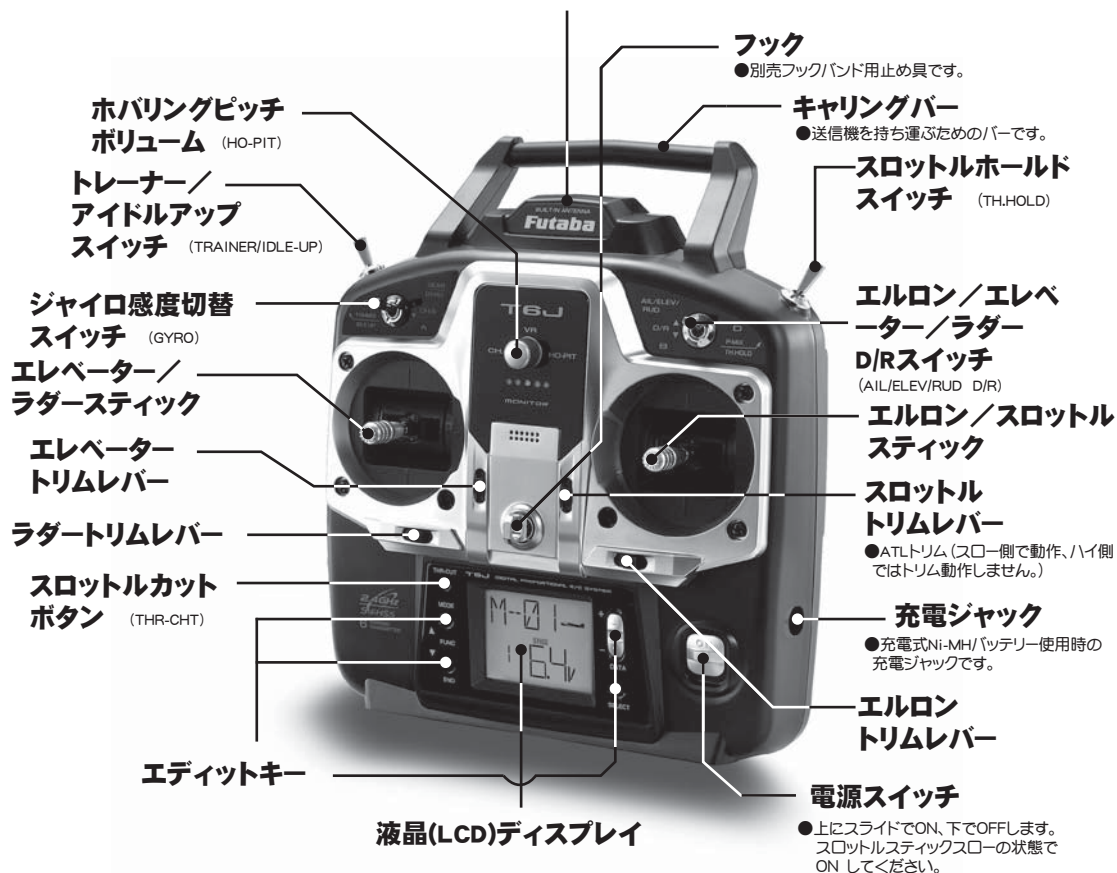
下図の送信機の電波の弱い方向(送信機側面)が機体に向かないような状態で操作する。

■送信機はできるだけ機体に正対させて操作してください。



アンテナ(内蔵式)

●ケース内に内蔵されています。



お使いになる前に

警告

飛行中、送信機のアンテナ部(内蔵)を手で覆わない。また、送信機のアンテナ部に導電性の板やステッカーなどを貼らない。

■電波の出力が弱くなるため、受信距離が短くなり危険です。

充電ジャック（送信機右側面）

送信機をニッケル水素電池式にした場合の充電口です。

（ニッケル水素電池式にする場合、別売の HT5F1700B をご使用ください。）

警告

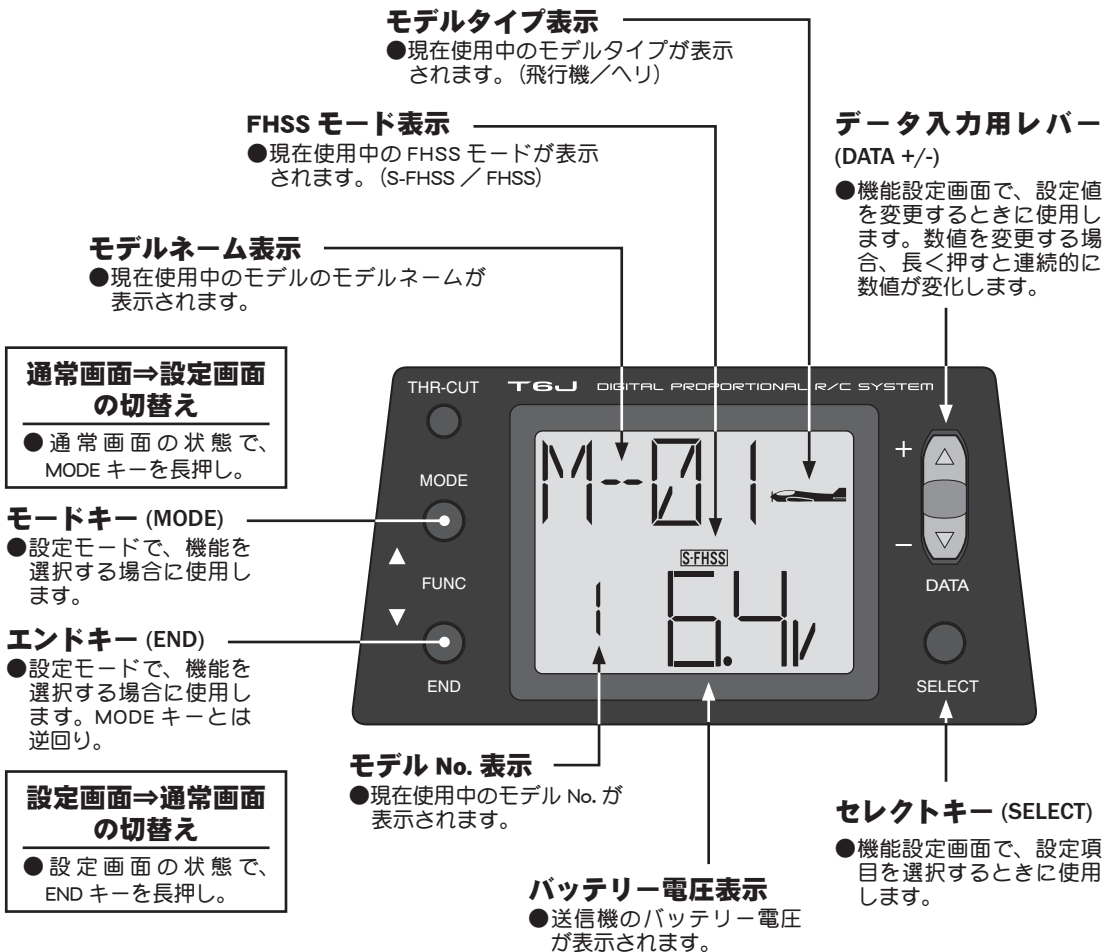
乾電池を使用している場合は絶対に充電しない。

■充電すると、送信機を破損したり、乾電池の液もれや破裂を引き起こします。

お使いになる前に

ディスプレイ表示とエディットキー操作

電源スイッチを入れると、”ピッピッ”という確認音がした後、下記の画面が現われます。



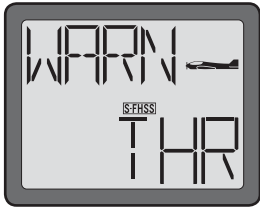
ワーニング表示

送信機の電源 ON 時のスロットルスティックやミキシングスイッチ位置、バッテリー電圧低下時、および送信機のデータ異常時のワーニング表示は下記のとおりです。それぞれ以下の操作でワーニング表示を解除することができます。


スロットルスティック位置 (電源 ON 時)

スロットルスティック位置がスロー側以外で電源を ON にすると、警告音とともに LCD 画面には "WARN-THR" が表示されます。

※ワーニング表示中も電波は送信されています。



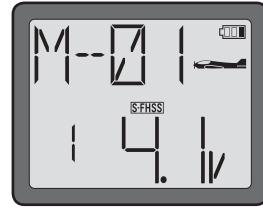
警告

 上記のアラームが表示されたら、スロットルスティックを最スロー側に操作または DATA レバーを長押しする。


■ワーニング表示が解除されます。

ローバッテリーアラーム

送信機のバッテリー電圧が約 4.2V を下回ると、警告音とともに LCD 画面には下記の表示が現われます。



警告

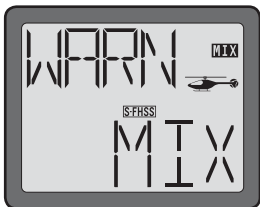
 ローバッテリーアラームが表示されたら、すみやかに着陸する。

■乾電池を新品に入れ替えてください。ニッケル水素電池をご使用の場合は充電してください。


ミキシングスイッチ位置 (電源 ON 時)

アイドルアップまたはスロットルホールド機能のスイッチが ON の状態で電源を ON にすると、警告音とともに LCD 画面には "WARN-MIX" が表示されます。(ヘリ用のモデルタイプのみ)

※ワーニング表示中も電波は送信されています。



警告

 上記のアラームが表示されたら、該当するスイッチを OFF 側に操作または DATA レバーを長押しする。

■ワーニング表示が解除されます。

送信機 T6J-2.4GHz (裏面)

お使いになる前に



トレーナー ジャック

- トレーナー機能を使用するとき、このジャックにトレーナーコードを接続します。(トレーナーコードは別売)
(トレーナー機能の使用方法は 44 ページをご覧ください。)

バッテリー カバー

- 電池を交換するときに開けます。(カバーの矢印の部分を押しながら下方にスライドさせる。)

乾電池の取扱い

(単 3 型乾電池 4 本使用)

< 乾電池の交換方法 >

- 1 バッテリーカバーの矢印の部分を押しながら下方にスライドさせて開ける。
- 2 古い乾電池をすべて取り出す。
- 3 新しい乾電池を極性表示の方向に合わせて入れる。
- 4 バッテリーカバーをスライドさせて閉める。

< 確認 >

- 電源スイッチを入れて、液晶パネルの電源電圧を確認してください。新品の乾電池の場合、6V 程度になれば OK です。
- 電圧が上がらない場合は、接触不良や、極性違いをチェックしてください。

< ローバッテリー アラーム >

- ローバッテリーアラームが鳴ったら、新しい乾電池と交換してください。(約 4.2V を下回るとアラームが表示されます)

⚠ 注意

- ❗ 乾電池は+-を正しく入れる。
 - 極性を間違えると送信機を破損します。
- ❗ 使用しないときは乾電池を外しておく。
 - 万一、液もれしたときはケースや接点に付いた液をよく拭き取ってください。

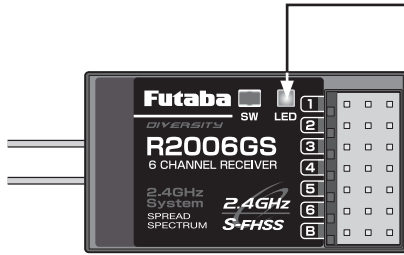
乾電池の処理方法について

使用済みの乾電池の処理方法は、お住まいの地域により異なります。お住まいの地域の処理方法に合わせ、正しく処分してください。

充電電池式にする場合

別売の HT5F1700B または FT2F2100B を使用します。改造方法は 71 ページを参照してください。

受信機 R2006GS



受信機の LED 表示

●受信機の電源を ON にすると LED がその動作状況に応じて点灯または点滅表示されます。

緑 LED	赤 LED	状 態
消灯	点灯	無信号時
点灯	消灯	通常動作時
点滅	消灯	受信信号の ID が不一致
交互に点滅		受信機内部の異常 (メモリー等)

受信機 CH 出力/電源コネクタ

- "1": エルロンサーボ (1CH 目)
- "2": エレベーターサーボ (2CH 目)
- "3": スロットルサーボ (3CH 目)
- "4": ラダーサーボ (4CH 目)
- "5": ギヤサーボ/ジャイロ感度 (5CH 目)
- "6": フラップサーボ/ピッチサーボ (6CH 目)
- "B": 電源接続コネクタ

受信機動作モード

●この受信機は弊社 S-FHSS 方式または FHSS 方式の送信機と組み合わせて使用が可能です。(S-FHSS/FHSS 自動切替)

動作モード切替時の注意

※電源 ON 時、受信機が送信機側の設定モード (S-FHSS または FHSS) を検出すると電源を切るまではそのモードで動作します。送信機側でモードを変更した時は送受信機の電源を入れ直してください。

お使いになる前に

送信機の操作と各舵の動き（飛行機）

調整をはじめる前に、下記の送信機の基本操作と機体の各舵の動きを理解しておいてください。

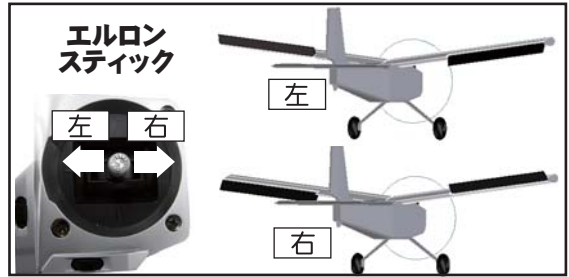
お使いになる前に

エルロンの動作

エルロンスティックを右に倒すと飛行方向に対し主翼右側のエルロン舵面は上がり、左側のエルロン舵面は下がり、その結果、機体は右に傾きます。エルロン・スティックを左に倒すとそれぞれ逆の方向に動作します。

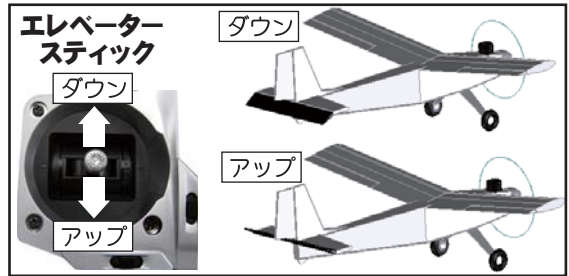
傾いた機体を水平にするためには、傾きとは逆方向にスティックを操作する必要があります。

スティックを倒し続けると、機体はロール（胴体を軸として回転）してしまいます。



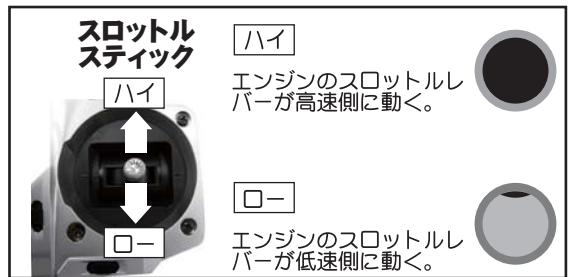
エレベーターの動作

エレベータースティックを手前に引くと水平尾翼のエレベーター舵面は上に上がり、胴体後部が下に押し下げられ、主翼にかかる空気の流れが変わり、揚力（浮く力）が大きくなり、その結果、機体は上昇します（アップ操作）。エレベータースティックを前方に押しとエレベーター舵面は下に下がり胴体後部が上に押し上げられ、主翼にかかる空気の流れが変わり、揚力（浮く力）が小さくなり、その結果、機体は降下します（ダウン操作）。



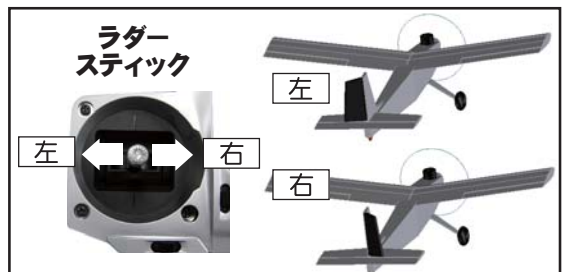
スロットルの動作

スロットルスティックを手前に引くとエンジンのスロットルレバーアームがスロー（低速）側に、スロットルスティックを前方に押しとハイ（高速）側となります。



ラダーの動作

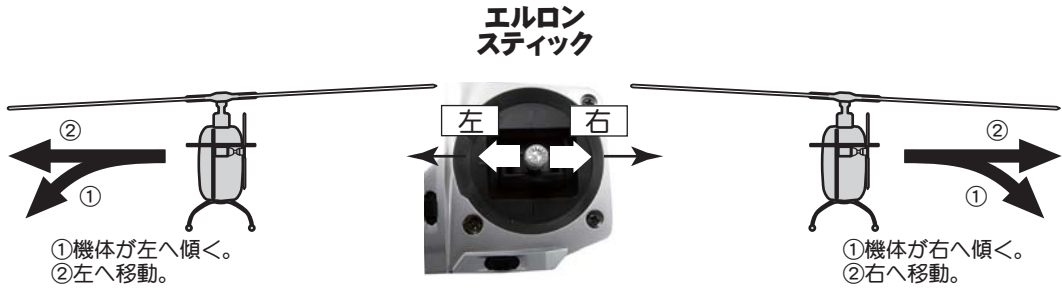
ラダースティックを右に倒すと垂直尾翼のラダー舵面は飛行方向に対し右側に動き、機首は右に向きます。ラダースティックを左に倒すと垂直尾翼のラダー舵面は左側に動き、機首は左に向き、機体の進行方向を変化させます。



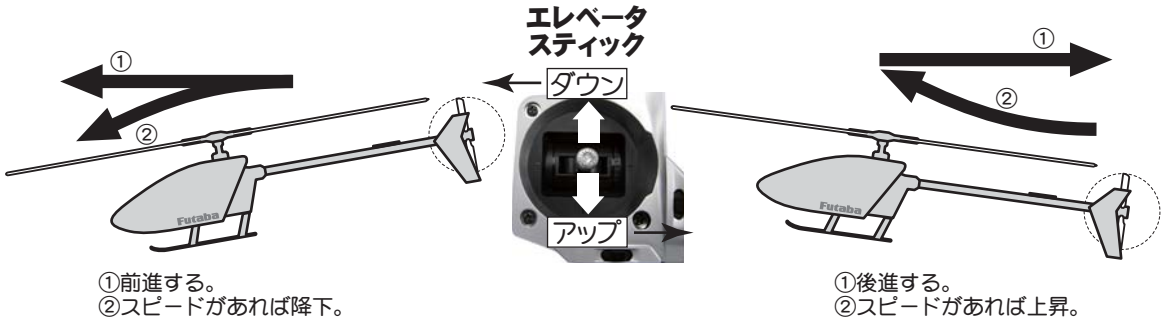
送信機の操作と機体の動き (ヘリ)

調整をはじめる前に、下記の送信機の基本操作と機体の動きを理解しておいてください。

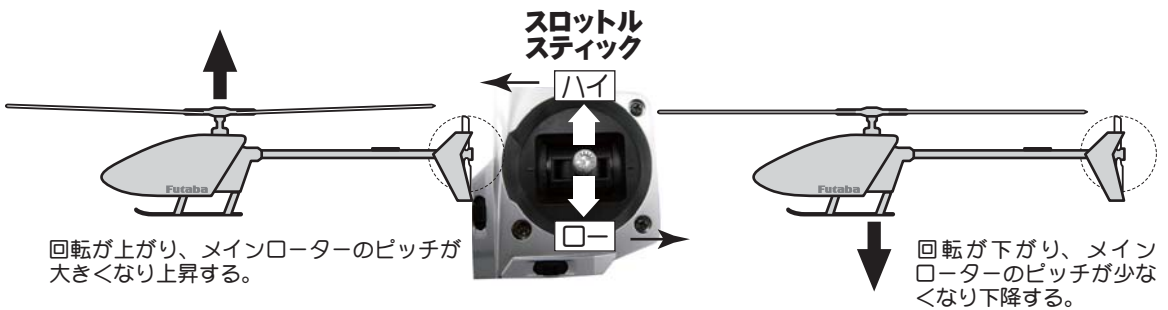
エルロンの動作



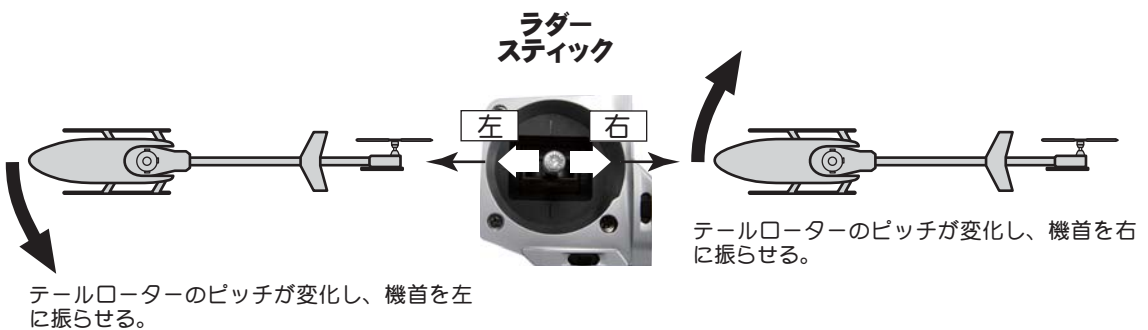
エレベーターの動作



スロットルの動作



ラダーの動作



お
使
い
に
な
る
前
に

送受信機のリンク操作

T6J-2.4GHz 送信機は固有の ID コードを持っています。受信機はご使用の前に、対応する送信機の ID コードの読み込み操作（リンク操作）を行う必要があります。一度リンク操作が行われると、その送信機の ID コードは受信機に記憶され、その受信機を別の送信機で使用するまでは、再リンク操作の必要はありません。

警告

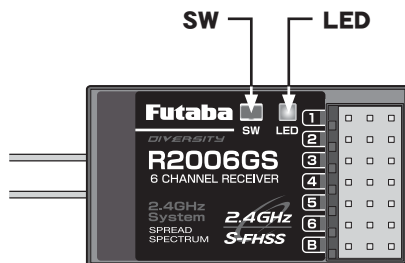
⊘ リンク操作時は動力用モーターが接続された状態やエンジンがかかった状態では行わない。

■ 不意にモーターが回転したり、エンジンが吹け上がったりすると大変危険です。

! リンク操作が完了したら、一旦受信機の電源を OFF とし、リンクした送信機で操作ができることを確認してください。

次の手順に従ってリンク操作を行ってください。

- 1 送信機と受信機をできるだけ近づけた状態で、送信機の電源を ON にします。
- 2 上記の状態、受信機電源を ON にしてください。
- 3 受信機の LED が緑色の点滅を始めます。これは送信機からの RF 信号を検知しているが、まだ、ID コードはリンクされていないことを示します。
*すでにリンクされている場合は緑色の点灯となります。
- 4 受信機の SW を約 2 秒間押した後、離します。受信機はリンク処理を開始します。リンク処理が完了すると、受信機の LED が緑の点灯に切り替わり、送信機と受信機が使用可能な状態となります。



距離テスト

安全にご使用いただくために、飛行前には必ず距離テストを実行してください。T6J-2.4GHz送信機には距離テスト専用のパワーダウンモードが搭載されています。

次の手順に従って距離テストを行ってください。

1 送信機の MODE キーを押しながら、送信機電源を ON にする。

2 パワーダウンモードで RF 出力され、ピープ音とともに送信機の画面に "POWR down" が点滅表示されます。

* このパワーダウンモードは約 90 秒経過後、自動的に解除され、通常の送信状態となります。また、パワーダウンモード中に MODE キーを 1 秒以上押しすと、エディットモードになり、パワーダウンモードはその時点で解除されます。



●点滅表示

3 スティック等を操作しながら、機体から離れて行きます。すべての操作が完全に正確に動作することを、機体のそばにいる助手に確認してもらいます。

* 機体から 30 ~ 50 歩 (30m) 程度離れた位置で正常に動作することを確認します。

* このとき、サーボがジッターしたり、操作とは異なる動きをする場合は何らかの問題があることが考えられます。原因を取り除くまではそのまま飛行しないでください。

その他、サーボ接続のゆるみやリンケージの状態等も確認します。また、フルに充電されたバッテリーを使用してください。

お
使
い
に
な
る
前
に

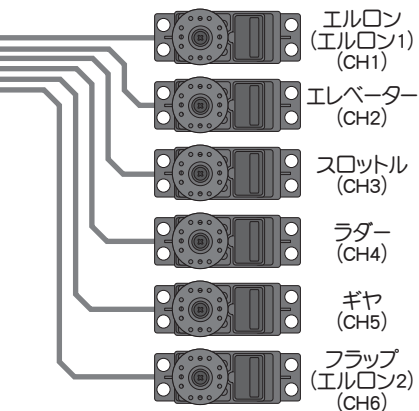
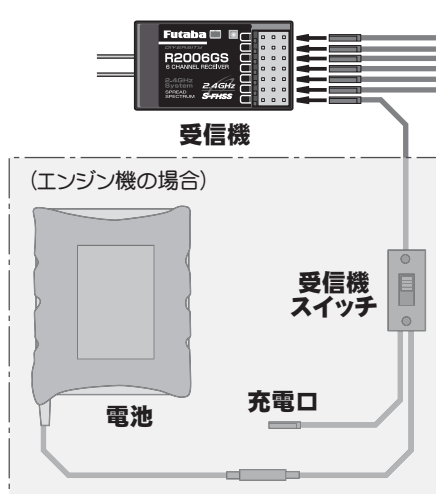
組込／調整方法

受信機、サーボ等を機体へ組み込むときの搭載方法および搭載後のプロポの調整方法を説明します。

受信機、サーボ等の接続（飛行機）

接続例を示します。キットに合わせて、必要な箇所を接続してください。

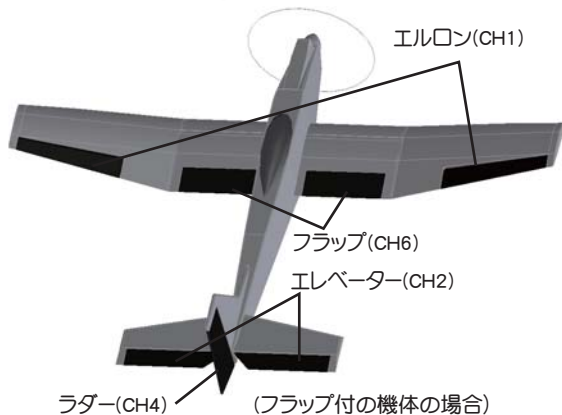
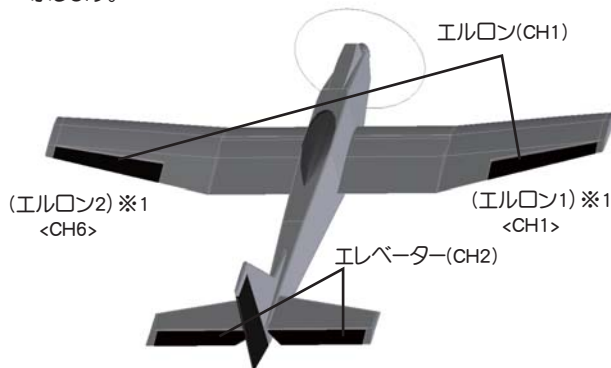
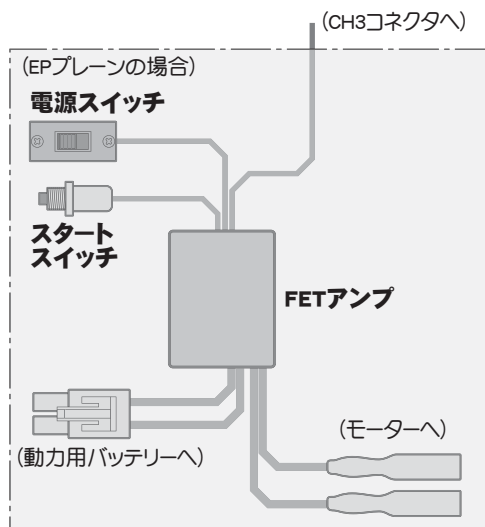
組込／調整方法



*フラップ機能を使用する場合、エルロンサーボが2ヶ必要。

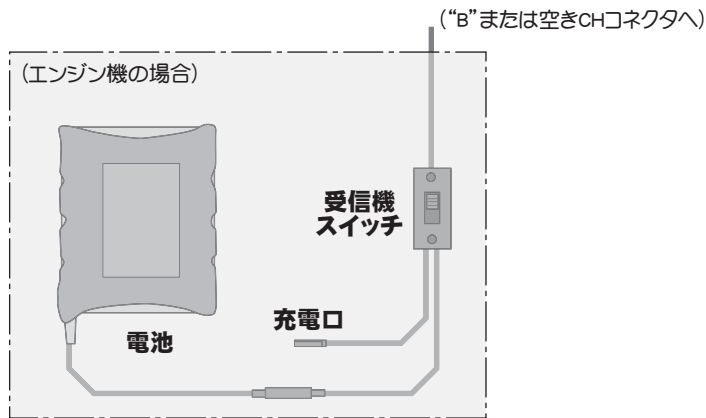
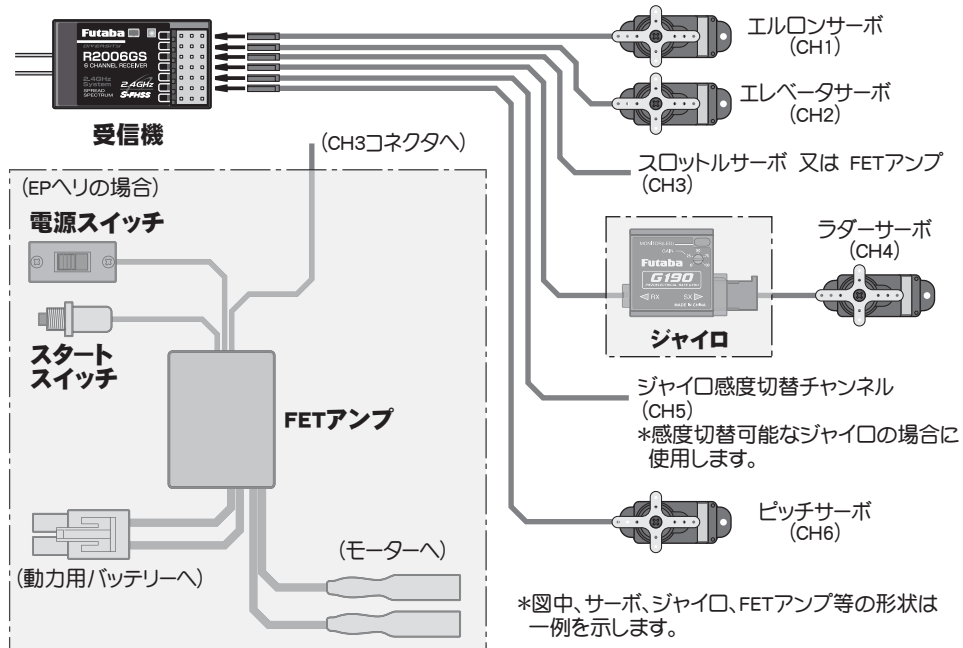
*サーボの数はセットによって異なります。

*図中、サーボ、FETアンプ等の形状は一例を示します。



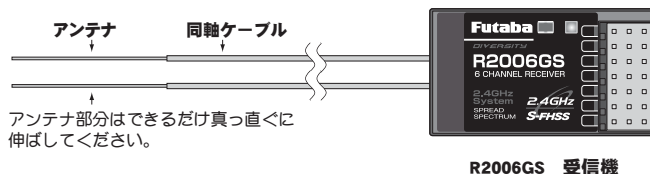
受信機、サーボ等の接続（ヘリ）

接続例を示します。キットに合わせて、必要な箇所を接続してください。



受信機の搭載

R2006GS 受信機は従来周波数の受信機とはアンテナの構造や構成が異なります。



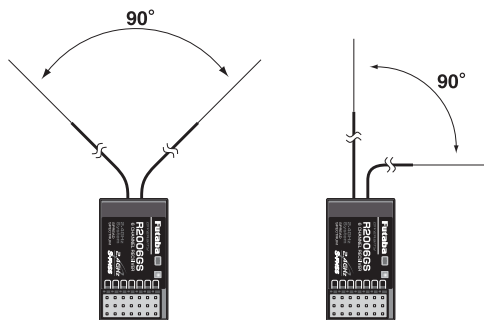
2つの異なる位置で信号を受信できるように、2つのアンテナが装備されています。(ダイバーシティ方式アンテナ) 2つのアンテナを自動的に切り替えて常に安定した受信状態を確保しています。受信機の性能を発揮させるために、次の手順および注意事項に従って搭載してください。

1 機体に受信機を搭載する場合、機体の振動から受信機を保護するため、従来周波数の受信機と同様にスポンジ等で包んでください。

2 2つのアンテナ（同軸ケーブル部は除く）はできるだけ曲げないように搭載します。曲げると受信特性に影響があります。

3 また、2つのアンテナがお互いに90度の位置関係になるようにし、アンテナ同士はできるだけ離して搭載することが重要です。

4 受信機アンテナの搭載位置の近くに、金属等の導電体がある場合、受信特性に影響を与える可能性があるため、アンテナはその導電体を挟んで、機体の両サイドに配置するようにします。これにより、機体姿勢に関係なく良好な受信特性が得られます。



5 アンテナは金属やカーボン等の導電体から少なくとも1cm以上離して搭載してください。なお、同軸ケーブル部は離す必要はありません。ただし、同軸ケーブルおよびアンテナはきつく曲げないでください。

6 機体がカーボンや金属を蒸着したフィルム等の導電性の材質で覆われている場合、アンテナ部分は必ず機体の外側に出ていることが必要です。また、上記と同様、アンテナを導電性の胴体に付けないでください。

*例えば、グライダーの多くでカーボン製の胴体を使用されています。このような機体に受信機を搭載する場合は上記の注意を必ずお守りください。

警告

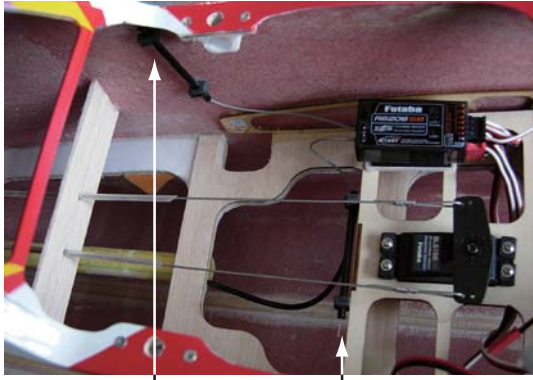


アンテナを引っ張ったり、余分な力を加えない。

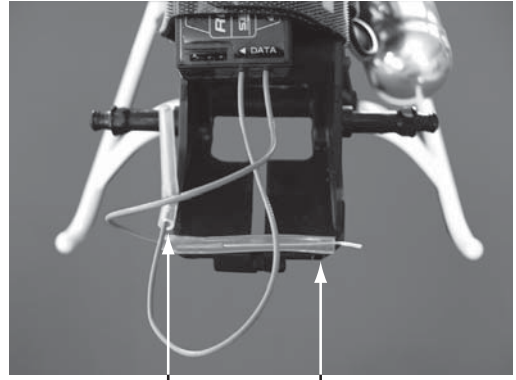
■受信機内部でアンテナが断線してしまいます。



アンテナはモーター、アンプおよびその他のノイズ源からできるだけ離す。



アンテナ



アンテナ

- * 上記写真は2つのアンテナの位置関係を示しています。実際の搭載時には、受信機は機体の振動から保護するため、スポンジに包んだり、機体の振動の影響を受けない場所に搭載します。
- * 受信機には壊れやすい電子部品が使用されています。振動、衝撃、高温等に対する保護対策を施してください。
- * 受信機は湿気の侵入を防止する構造ではありません。湿気が受信機内部に侵入すると、一時的に動作が停止したり、異常動作を引き起こす可能性があります。湿気の侵入を防ぐため、受信機をビニール袋等に入れて保護してください。燃料や排気からの保護にもなります。

警告

コネクタ接続について

受信機、サーボ、電池等の接続コネクタは奥まで確実に挿入する。

- 飛行中に、機体の振動等でコネクタが抜けると墜落します。特に、エルロンサーボへの延長コードを主翼につなぐ場合に、受信機側が抜けやすい。

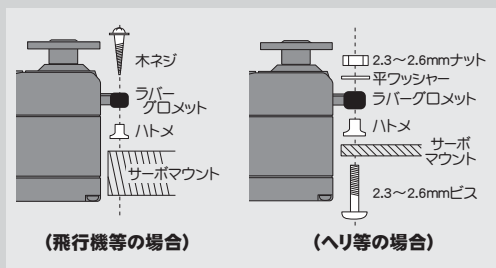
受信機の防振／防水について

受信機はスポンジゴム等で包んで防振対策を行う。また、水のかかる恐れのある場合はビニール袋等に入れて、防水対策を行う。

- 強い振動やショックを受けたり、水滴の侵入によって誤動作すると墜落します。

サーボの取り付けについて

サーボは防振ゴム（ラバークロメット）を介してサーボマウント等に取り付ける。また、サーボケースがサーボマウント等の機体の一部に直接触れないように搭載する。



- サーボケースが直接機体に触れていると、機体の振動が直接サーボに伝わり、その状態が続くとサーボが破損し墜落します。

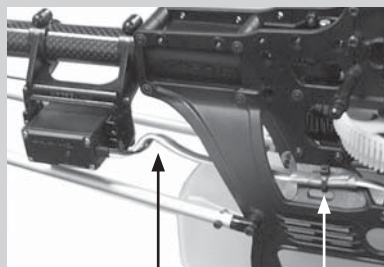
サーボの動作中について

各舵のサーボを動作中いっぱい動作させてみて、ブッシュロッドがひっかかったり、たわんだりしないように調整する。

- サーボホーンに無理な力が加わった状態が続くと、サーボが破損したり、電池の消耗が早くなって墜落します。

サーボリード線の固定

サーボのリード線は飛行中の振動に共振して断線することを防ぐため、突っ張らないよう少し余裕を持たせ、適当な位置で固定してください。また、日頃のメンテナンス時にも定期的に確認してください。



- (固定例)
- リード線に余裕を持たせる。
 - リード線が暴れないようサーボの出口から5~10cm程度のところを固定する。

電源スイッチの取り付け

機体に受信機側電源スイッチを取付ける場合、スイッチのつまみ全ストロークより、多少大き目の長方形の孔を開け、ON / OFF が確実にスムーズに行えるように取付けてください。取り付けビスを変更しなければならないときは、スイッチの配線を押さないようビスの長さを選んでください。ショートすると火災、破損、墜落の原因となります。また、エンジンオイル、ほこり等が直接かからない場所に取付けてください。一般的にマフラー排気の反対側の胴体側面に取付けます。

基本セッティング（飛行機）

飛行機のセッティング方法について、フラップロン機能を使用した機体のセッティング例を説明します。なお、実際に使用される機体に合わせて数値は読み替えて下さい。

⚠ 注意

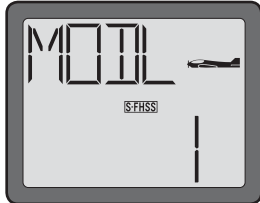
- 機体の基本的なリンクージや調整は、機体の設計図、キットの取扱説明書に従う。特に重心位置は指定の位置になるようにする。

準備

- フラップロン機能を使用する場合、主翼のエルロンは、右翼に受信機の 1CH(エルロン)、左翼に 6CH (フラップ) を接続して、以下の調整を行ってください。
- エルロンは 6 本アーム型ホーン (ホーン B) の外側から 2 番目、エレベーター、ラダーは一番外側を使用します。微調整は送信機側でとります。

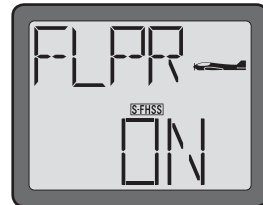
<モデルメモリーの選択>

- 1 設定を行う前に、モデルセレクト機能 (MODL) (36 ページ) で、使用していないモデルナンバーを選択する。



<ウイングタイプの選択>

- 3 必要な場合、機体のウイングタイプに合わせて、ミキシングを選択します。このセッティング例では、フラップロン機能 (FLPR) (52 ページ) を "ON" にします。



<モデルデータのリセット>

- 2 パラメータ設定画面のリセット機能 (REST) (47 ページ) 画面で、DATA + または - レバーを長押しして、データを初期の値にリセットします。



* フラップロン機能 (FLPR)、V テール機能 (V-TL)、またはエレボン機能 (ELVN) が選択可能。

調整手順

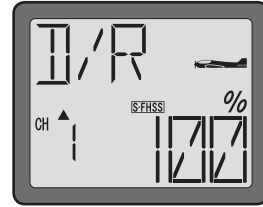
<各舵の方向の設定>

- 1 各舵の方向が合っているかどうかを確認する。逆の場合はサーボリバース機能 (REVR) (37 ページ) で方向を合わせる。

*特にエルロンの動作方向は間違いやすいので注意が必要です。

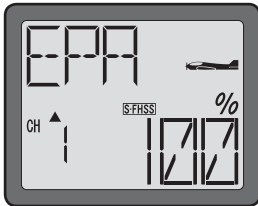


- 3 D/R 機能 (D/R) (38 ページ) をとりあえず下記の値に設定する。



<舵角の調整>

- 2 基本の舵角を EPA 機能 (EPA) (40 ページ) で以下のように調整する。



●エルロンの設定

レートを 100% に設定します。

●エレベーターの設定

レートを 100% に設定します。

●ラダーの設定

レートを 100% に設定します。

*演技によっては初期舵角 (EPA 舵角) 以外の舵角を使用したい場合があります。そのような場合に D/R 機能を使用します。とりあえずは使用しないので、D/R 機能を初期値のままにしておきます。したがって、D/R スイッチを切替えても舵角は変化しません。

●エルロンの設定 (翼端エルロン)

左右のエルロン動作量が上下 14 ~ 15mm 程度動くように定規をあてて計ります。ずれている場合は EPA 機能で、エルロン (1CH)、フラップ (6CH) を調整します。90 ~ 110% の範囲で調整できるはずです。

●エレベーターの設定

同様にエレベーターも上下 15mm 程度動くように EPA 機能で調整します。

●ラダーの設定

同様にラダーも左右 45° 程度動くように EPA 機能で調整します。

基本セッティング (ヘリ)

ここでは基本的なセッティング方法を説明します。なお、実際に使用される機体に合わせて、読み替えてください。

⚠ 注意

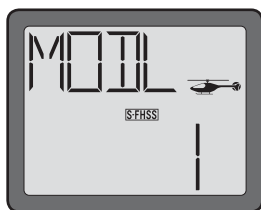
- 機体の基本的なリンクージや調整は、キットの取扱説明書の指示に従ってください。また、ジャイロ、アンプ等の取扱いも、それぞれの取扱説明書の指示に従ってください。

準備

- 充電バッテリーを使用する場合は、設定の前に充電を行ってください。
- 受信機、サーボ、アンプ、ジャイロ、およびバッテリー等を接続する。(21 ページ)
- 電源 ON 時は、必ず送信機を ON にしてから受信機側を ON にします。

<モデルメモリーの選択>

- 1 設定を行う前に、モデルセレクト機能 (MODL) (36 ページ) で、使用していないモデルナンバーを選択する。



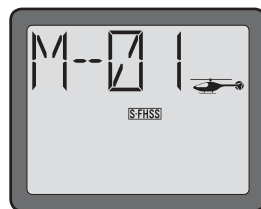
<モデルデータのリセット>

- 2 パラメータ設定機能 (PARA) のリセット機能 (REST) 画面で、DATA + または - レバーを長押しして、データを初期の値にリセットします。



<モデルネームの設定>

- 3 モデルネーム機能 (36 ページ) で、モデルの名前 (4 桁) を登録しておくこと、後で呼び出すときに便利です。



<スワッシュタイプの選択>

- 4 機体のスワッシュタイプに合わせて、スワッシュタイプ選択 (SWSH) (68 ページ) で、タイプを選択します。



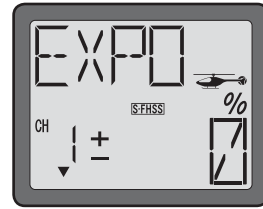
* H-1: ノーマルリンクージ、HR3: 120 度、HE3: 90 度、H-3: 135 度

調整手順

<各舵の方向の設定>

1 各舵の方向が合っているかどうかを確認する。逆の場合はサーボリバース機能 (REVR) (37 ページ) で方向を合わせる。

* キットの取扱説明書の指定の方向に合わせる。

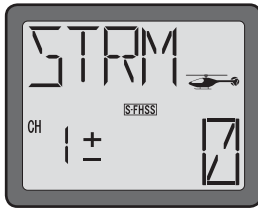
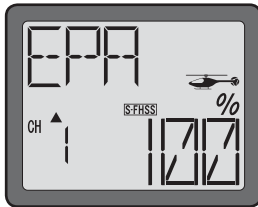


* 演技によっては初期舵角 (EPA 舵角) 以外の舵角を使用したい場合があります。そのような場合に D/R 機能を使用します。とりあえずは使用しないので、D/R 機能を初期値のままにしておきます。したがって、D/R スイッチを切替えても舵角は変化しません。

* ニュートラル付近のスティック操作のフィーリングをクイックにまたはマイルドにしたいときに、EXP 機能を使用します。

<舵角の調整>

2 舵角およびセンター位置は、基本的にはサーボホーンで調整し、EPA 機能 (EPA) (40 ページ) およびサブトリム機能 (STRM) (42 ページ) で微調整する。



<アンプの設定> (EP ヘリの場合)

4 使用するアンプの取扱説明書の指示に従って、アイドルポイント (スロー側)、ハイポイント (ハイ側) 等の調整を行う。

<ジャイロの設定> (G190 の場合)

5 使用するジャイロの取扱説明書の指示に従って、調整する。

次に、例として G190 を使用する場合の設定方法を説明します。

● トリマーの操作について

* G190 は小型・軽量を追求しているため、調整用トリマーも小型の部品が使用されています。必ず、付属のミニドライバーで操作し、無理な力をかけないでください。

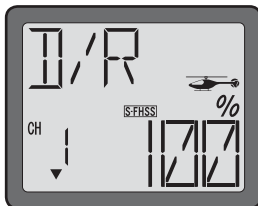
機体への搭載

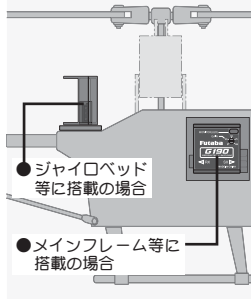
① G190 本体を、ヘリのジャイロベッドまたは指定の位置に付属の両面スポンジテープで仮止めします。この時ジャイロ本体の向きが、図のようにヘリのメインローターのシャフトに対して平行 (テールパイプに直角) になるように取り付けます。

* 後で動作方向を確認してから、正しい方向に固定するので、ここでは仮止めとします。

<D/R、EXP の調整>

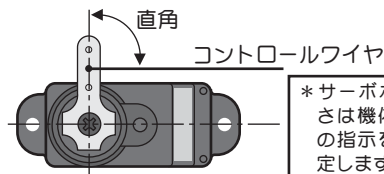
3 デュアルレート機能 (D/R) (38 ページ) およびエクスポネンシャル機能 (EXPO) (39 ページ) はとりあえず初期設定のままとします。





- * G190 は付属の両面スポンジテープで取り付けてください。
- * 両面テープは取付け面より多少大きめに切ってください。
- * 機体側の取付け面はジャイロの取付け面より大きい場所を選んでください。

- G190 にラダーサーボを接続し、G190 のラダー入力コネクタを受信機のラダーチャンネルコネクタに接続します。
 - ラダーサーボのリンケージは、ヘリの取扱説明書にしたがってください。
- * ジャイロ性能を十分発揮させるために重要なことは、ラダーニュートラル位置で、サーボホーンとコントロールワイヤが直角になる位置にリンケージされていることです。



- * サーボホーンの長さは機体メーカーの指示を基準に設定します。

ジャイロ感度の初期設定

- ジャイロ感度トリマーを、とりあえず約 75% の位置にします。



- まず、トリマーを時計方向一杯に廻します。このとき、トリマーの切れ込み位置が 100% の位置に合います。
- その切れ込みを 75% の位置に合せます。

* 実際の感度調整は飛行しながら行います。

電源 ON 時の操作

- 送信機のスロットルスティックを最スローの状態とし、送信機、ジャイロ（受信機側）の順に電源を入れます。

● G190 の初期化について

- * 電源 ON 時、G190 内部で自動的にジャイロセンサーの初期化（基準点の読み込み）が行われます。モニター LED の速い点滅が点灯に変わるまでは機体を動かさないでください。
- * 振動の多い場所では初期化が正しく行われず、LED の点滅が停止しない場合があります。

ラダーサーボの動作方向の確認

- ラダースティックを左右に操作してみて、ラダーサーボの動作方向を確認します。逆に動作する場合は送信機のリバース機能で方向を合せます。

ジャイロの動作方向の確認

- ヘリの機首を右に動かしたとき、ラダーサーボが左方向への動作になっていればジャイロの動作方向は合っています。
取り付け方向が決まったらジャイロを確実に固定してください。
- サーボが逆に動作する場合は、ジャイロの天地を逆に取り付け直してください。
- ジャイロ方向が逆のまま飛行しようとする、ローターが右回転の場合、機首が左に回転してしまいます。

飛行調整

- ヘリを浮上させホバリングを行い、送信機のトリムレバーでラダーのニュートラル調整を行います。
* 大きなズレは機体側のリンケージで調整します。
- ジャイロの感度調整は、ヘリのテールがハンチングする寸前の感度に設定します。
* 感度を調整する場合は確認しながら少しずつ増減してください。

<ワンポイントアドバイス>

- ジャイロ感度はサーボホーンの長さによっても変化します。感度が不足の場合はサーボホーンを長くします。逆にハンチングが止まらない場合はサーボホーンを短くします。
- 送信機のリボリューションミキシング（ピッチ→ラダーミキシング）は必要により使用してください。

注意：動力用バッテリーの残量が少なくなると、機体が不安定となり、同時にジャイロも不安定となってきますのでご注意ください。

エンジン機の機能（エンジン機対応のサーボ等を別途お買い求めください。）

この T6J-2.4GHz 送信機は次のエンジン機用機能が使用できます。

ノーマル時、アイドルアップ時のスロットルカーブおよびピッチカーブの設定、オートローテーション時のスロットルホールド機能の設定が可能です。

切替スイッチの位置とON方向は次のとおりです。

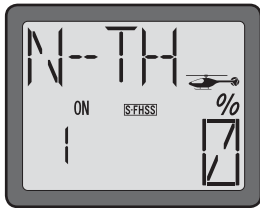
- ノーマル：
アイドルアップ、スロットルホールドスイッチOFF時に動作
- アイドルアップ：
送信機左肩のスイッチがセンターで動作
- スロットルホールド：
送信機右肩のスイッチが手前で動作

優先順位はスロットルホールド／アイドルアップ／ノーマルの順で、スロットルホールドが最優先となります。

- ノーマル→エンジン始動からホバリング演技に使用
- アイドルアップ→上空で使用
- スロットルホールド→オートローテーションに使用

<スロットルカーブ（ノーマル）の設定>

1 スロットルカーブ（ノーマル）（N-TH）（58ページ）で調整します。



スロットルカーブをとりあえず次の値に設定してみます。

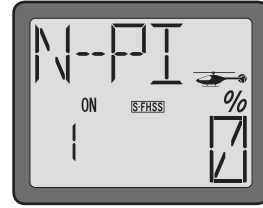
- ポイント 1 = 0% / ポイント 2 = 30% / ポイント 3 = 50% / ポイント 4 = 65% / ポイント 5 = 100%

この設定は、ホバリング（3ポイント目）を基準に前後を寝かせたカーブで、ホバリング付近を鈍くしてあります。

ホバリング時のレスポンス、回転数を見ながら、2、3、4ポイントで調整します。ピッチとの兼ね合いもあるので合わせて考えてください。

<ピッチカーブ（ノーマル）の設定>

2 ピッチカーブ（ノーマル）（N-PI）（59ページ）で調整します。



ピッチカーブをとりあえず次の値に設定してみます。

- ポイント 1 = 15% / ポイント 2 = 30% / ポイント 3 = 53% / ポイント 4 = 75% / ポイント 5 = 85%

ホバリング時のピッチは約 +5 ~ 6° にします。この設定は、立ち上がりガスロー側で早く、ハイ側が遅くなるカーブです。

【調整ポイント 1】

- 離着陸ではポイント 1、2 を使い、上昇、下降時のレートを含ませます。

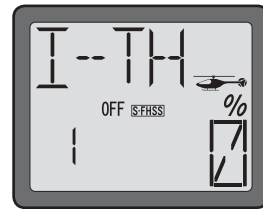
【調整ポイント 2】

- ホバリングではポイント 3 を基準にピッチ回転数を設定します。
- 上昇側のセットはポイント 4 の数値を増減させることによりレスポンスを変えることができます。数値を増やすと敏感に、減らすと鈍感になります。スティックがポイント 4 を越えたときはポイント 5 の調整領域となります。
- 下降側のセットはポイント 2 の数値を増減させることによってレスポンスを変えることができます。数値を増やすと鈍感に、減らすと敏感になります。

ホバリングの時の安定は、スロットルカーブとの兼ね合いがあります。ホバリングスロットル、ホバリングピッチ機能を合わせて使うと調整が楽になります。

<スロットルカーブ（アイドルアップ）の設定>

3 スロットルカーブ（アイドルアップ）（I-TH）（60ページ）で調整します。



このスロットルカーブ（アイドルアップ）をONにすることにより、アイドルアップ機能が有効になります。

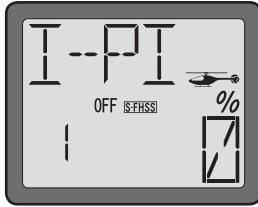
（設定例）

- ポイント 1 = 56% / ポイント 2 = 54% / ポイント 3 = 50% / ポイント 4 = 75% / ポイント 5 = 100%

スロットルスティックをスロー側にしても回転を維持する設定となります。

<ピッチカーブ (アイドルアップ) の設定>

4 ピッチカーブ (アイドルアップ) (I-PI) (61 ページ) で調整します。



(設定例)

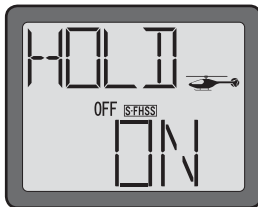
ポイント 1、2 をノーマルと同じ設定値とし、ホバリングよりハイ側は使用エンジンに合わせて、負担のかからない最大値に調整してください。

- ポイント 1 = 15% / ポイント 2 = 30% / ポイント 3 = 45% / ポイント 4 = 55% / ポイント 5 = 70%

<スロットルホールドの設定>

(この機能は EP ヘリにも応用可能です。)

5 スロットルホールド (HOLD) (62 ページ) で調整します。

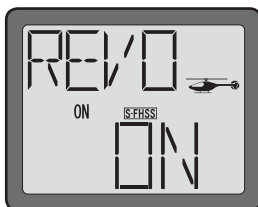


機能を ON にし、スロットルホールド時のサーボポジションを設定します。(アイドルリングの状態とします)

<リボリューションミキシングの設定>

メインローターの反動トルクを抑えるミキシングです。AVCS ジャイロを使用する場合、このミキシングは ON にしないでください。

6 リボリューションミキシング (REVO) (64 ページ) で調整します。



機能を ON にし、離着陸、一定スピードの垂直上昇に合わせて設定します。

(設定例)

- ロー側 ; -30%、ハイ側 ; -15%

<ジャイロ感度の設定>

ジャイロ側に感度切り換えがある場合、ジャイロミキシングを使用して送信機側から切替えが可能です。

7 ジャイロミキシング (GYRO) (65 ページ) で調整します。

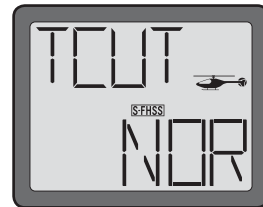


感度切替スイッチ (5CH 目) の両方向の感度を設定できます。

<スロットルカットの設定>

フライト終了時のエンジンカットがスロットルトリムに変わり専用ボタンでワンタッチで行なえます。ボタンで行うため、トリムの位置を探す必要がありません。従っていつもアイドル位置が一定となります。

8 スロットルカット機能 (49 ページ) で設定します。

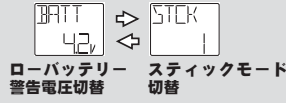
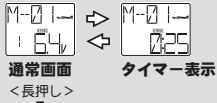


機能マップ

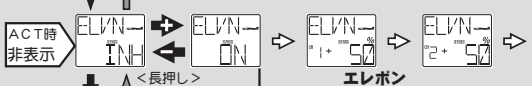
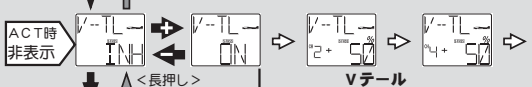
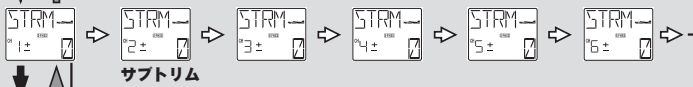
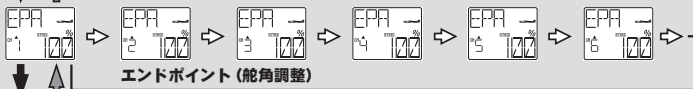
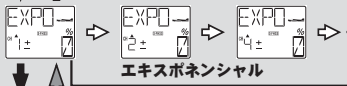
飛行機用機能 (ACRO)

- MODE+ENDを押しなが
ら電源スイッチをON
- 電源OFFで通常画面に

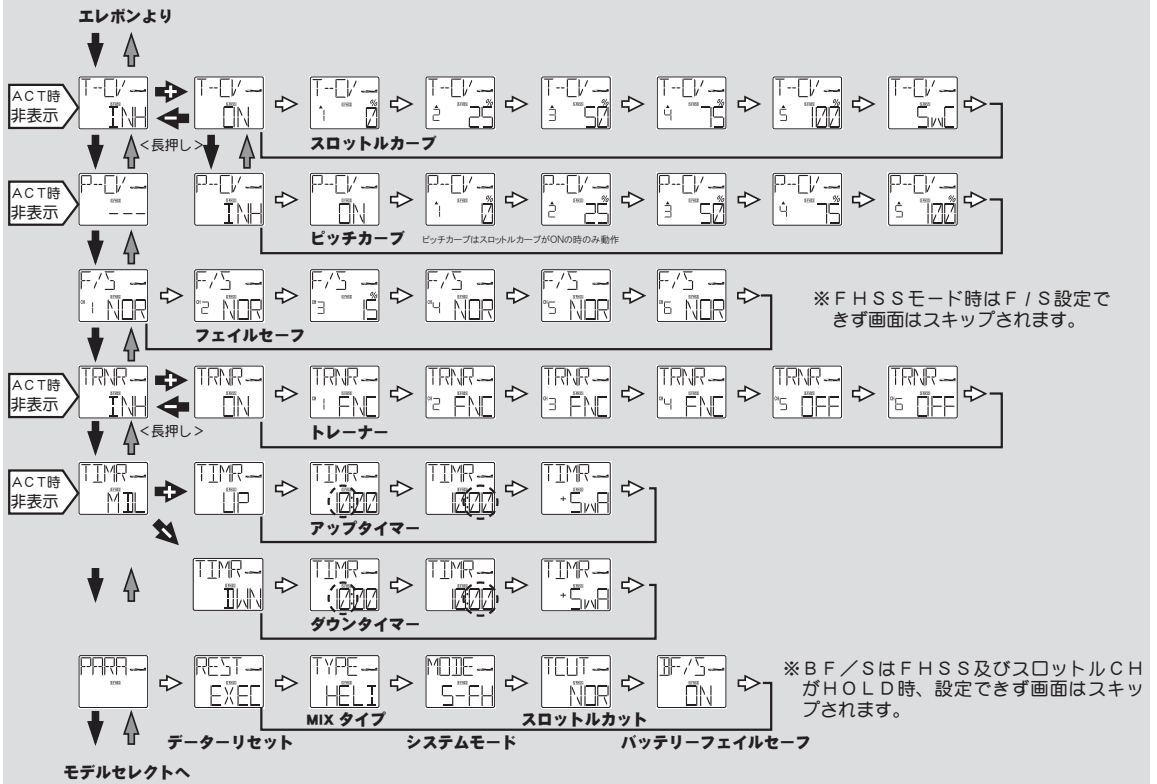
- 電源ON時スロットル
がスロー位置でなければ
警告音がでます。







モデルセレクト



スロットルカーブへ



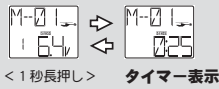
【記号の説明】

- ↓ : MODEキー 
- ↑ : ENDキー 
- ⇄ : SELECTキー 
- ↕ : DATAキー 

ヘリ用機能 (HELI)

- MODE+ENDを押しなが
ら電源スイッチをON
- 電源OFFで通常画面に

- 電源ON時スロットル
がスロー位置でなければ
警告音がでます。

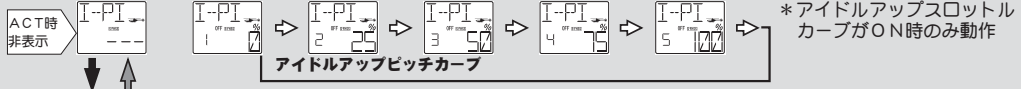
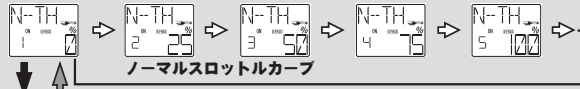
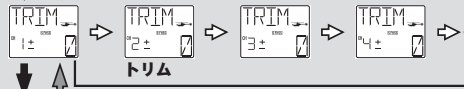
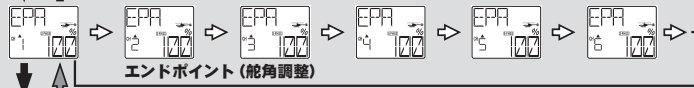
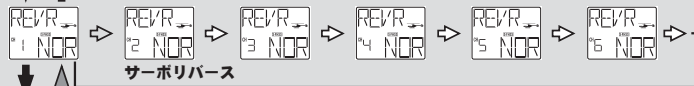
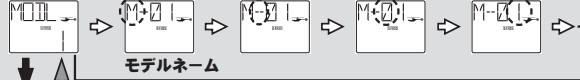


タイマー表示



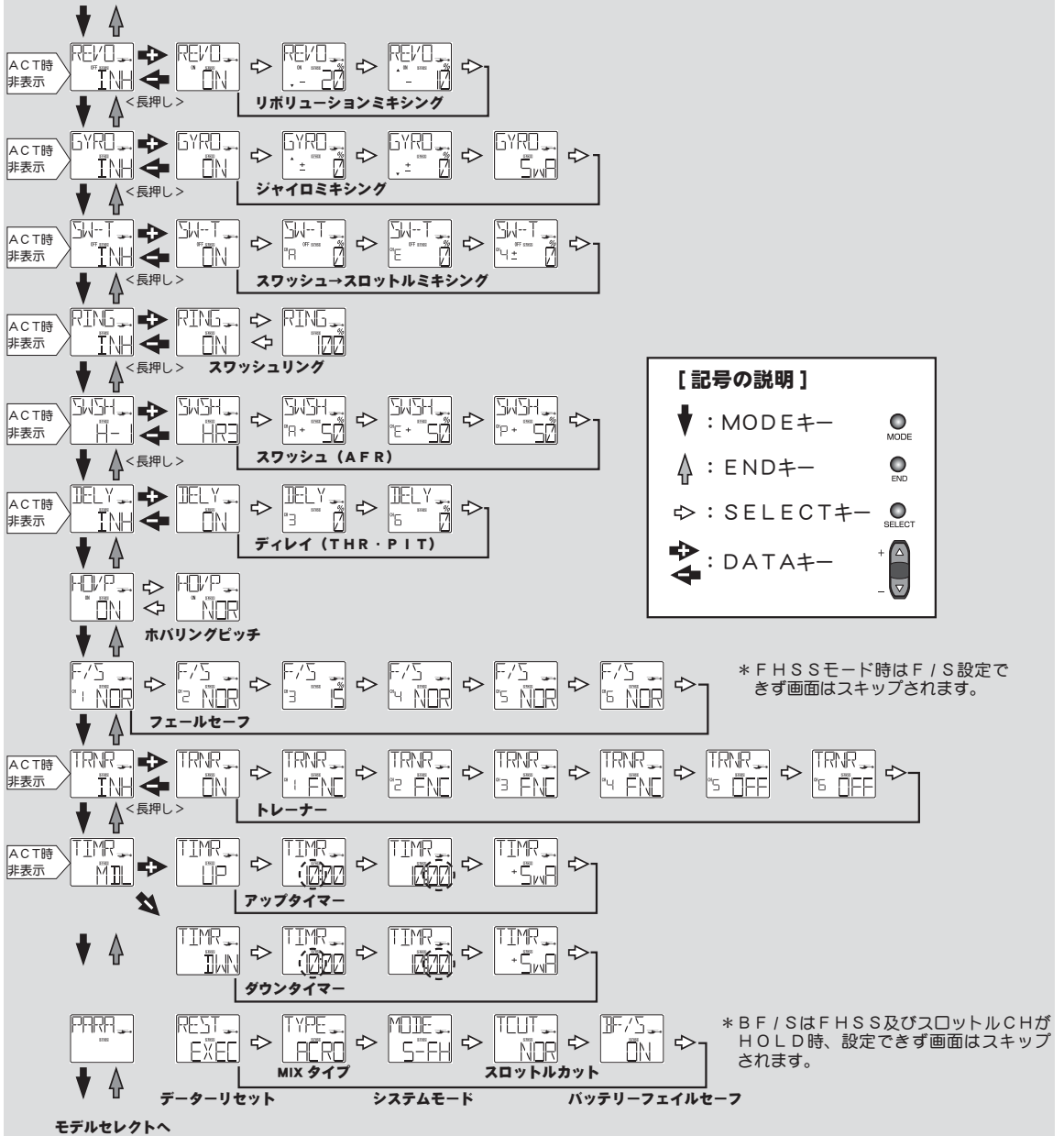
●スローで警告解除

モデルセレクト



リボリューションミキシングへ

ホールドピッチカーブより



機能説明

[MODL] モデルセレクト

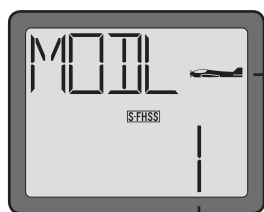
モデルセレクト機能は送信機に保存されているモデルメモリーを呼び出すときに使用します。この T6J-2.4GHz 送信機には 15 機分のデータをメモリーすることができます。

モデルメモリーの選択方法

* 通常画面の状態、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで MODL 設定画面を呼び出す。

* 既に呼び出されている場合は手順 2 へ。



●モデル NO. を表示

●モデルタイプ

2 DATA レバーを + または - 側に長押しして、呼び出したいモデル No. を選択する。

●呼び出されたモデル No. が右下に点滅表示されます。また、モデルタイプが右上に表示されます。

* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

(モデルタイプ)

 : ACRO の場合

 : HELI の場合

モデルネーム

モデル毎に 4 文字迄のモデルネームを付けることが可能です。通常画面に表示されます。

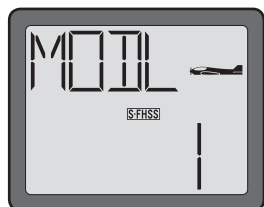
●機体に対応した名前を付けておくと、飛行前の確認が容易に行えます。

モデルネームの設定

* 通常画面の状態、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

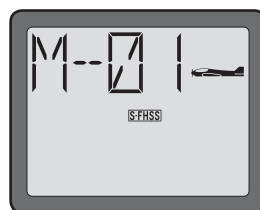
1 FUNC キーで MODL 設定画面を呼び出す。

* 既に呼び出されている場合は手順 2 へ。



●モデル NO. を確認します。

2 名前を変更したいモデルが呼出されている状態で、SELECT キーを 1 回押して、設定画面を呼び出す。



●名前の 1 桁目が点滅。

3 DATA レバーを + または - 側へ押して文字を選択します。

●次の文字が使用可能。(合計 40 文字)
0~9, (スP-ス), +, -, A~Z, /

●SELECT キーで 2~4 桁目を選択し、同様に文字を選択します。

* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

[REVR] サーボリバーズ

サーボの動作方向を変える機能です。サーボを搭載するときに、動作方向が合わない場合に方向を反転できます。

- CH3(スロットル)反転時は F/S 位置が自動反転されます。

⚠ 注意

- ⚠ サervoの動作方向を間違えると墜落します。キットの取扱説明書の指示に従ってください。特に飛行機のエルロンの動作方向は間違いやすいので注意する。

サーボ動作方向の反転方法

* 通常画面の状態では、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで REVR 設定画面を呼び出す。



- ノーマル側は "NOR"、リバーズ側は "REV" で表示されます。

2 設定したいチャンネルを SELECT キーで選択する。

3 DATA レバーを+または-側に長押しして、方向を反転する。

- +側で NOR(ノーマル)側に、-側で REV(リバーズ)側に設定できます。
- 各チャンネルについて、上記2~3の操作を繰り返して設定してください。

* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

[D/R] デュアルレート

<デュアルレート機能>

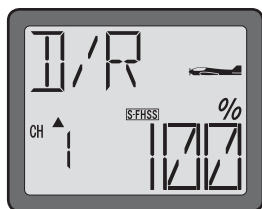
飛行する演技によっては、初期舵角（EPA 舵角）以外のレートを使用したい場合があります。このようなときに D/R 機能を使用します。スイッチによりエルロン、エレベーターおよびラダーの舵角レートを同時に切替えます。

- スイッチの各方向について設定が可能です。
- D/R スイッチを選択できます。（初期設定：スイッチ B）

デュアルレートの調整

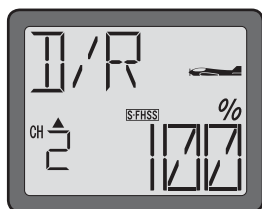
* 通常画面の状態では、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで D/R 設定画面を呼び出す。



2 (ACRO の場合) 設定したいチャンネルを SELECT キーで、スイッチ方向をスイッチで切り替える。

(HELI の場合) 設定したいチャンネルおよびスイッチ方向を SELECT キーで切り替える。



- チャンネル No. の上に▲、または下に▼でスイッチ方向が表示されます。

3 DATA レバーを+または-側へ押しレートを設定する。

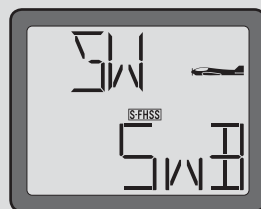
- 設定範囲：0 ~ 140%（初期値 = 100%）
- 他のチャンネルおよびスイッチ方向についても、上記 2 ~ 3 の操作をくりかえしてください。

* D/R を 0% に設定すると、そのチャンネルのサーボは動作しません。

(スイッチを変更する場合)

* D/R 設定画面を呼び出した状態で、次の設定を行います。

1 SELECT キーで下記のスイッチ設定画面を選択する。



2 DATA レバーを+または-側へ押しスイッチを選択する。

- 設定範囲：ACRO : SwA ~ SwD（初期値 = SwB）
HELI : SwA, SwB, IDL（初期値 = SwB）

* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

[EXPO] エクスポネンシャル

<エクスポネンシャル機能>

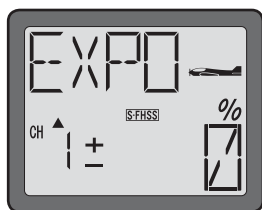
エルロン、エレベーターおよびラダーのニュートラル付近のスティック操作に対するサーボの動きを鈍くしたり、または、敏感にして、操縦を楽に行なえるような動作カーブに変更する機能です。" - " 側に設定するとニュートラル付近が鈍くなり、" + " 側に設定すると逆に敏感になります。

- D/R スイッチの各方向について設定が可能です。

エクスポネンシャルの調整

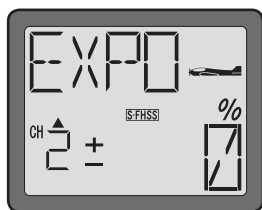
* 通常画面の状態では、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで EXPO 設定画面を呼び出す。



2 (ACRO の場合) 設定したいチャンネルを SELECT キーで、スイッチ方向をスイッチで切り替える。

(HELI の場合) 設定したいチャンネルおよびスイッチ方向を SELECT キーで切り替える。



- チャンネル No. の上に ▲、または下に ▼ でスイッチ方向が表示されます。

3 設定したい方向にスイッチを切り替える。

- チャンネル No. の上に ▲、または下に ▼ でスイッチ方向が表示されます。

4 DATA レバーを + または - 側へ押しレートを設定する。

- 設定範囲：-100 ~ 0 ~ +100% (初期値 = 0%)
- 他のチャンネルおよびスイッチ方向についても、上記 2 ~ 4 の操作をくりかえしてください。

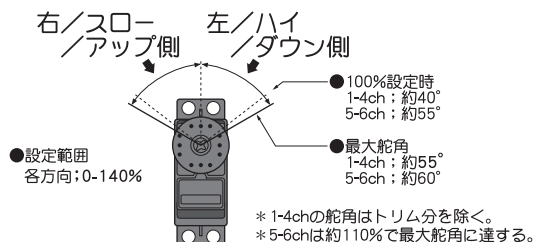
* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

[EPA] 舵角調整

リンケージ時の機体各舵の初期舵角を決める機能で、サーボの動作量を左右片側ずつ調整できます。

サーボの振り角

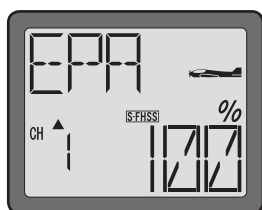
100% 設定時の各チャンネルのサーボの振り角は、1～4CH が片側約 40°、5～6CH は片側約 55° です。なお、5～6CH は設定値が約 110% で最大舵角となり、それ以上に設定しても変化しません。



サーボ舵角の調整

* 通常画面の状態では、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで EPA 設定画面を呼び出す。



2 設定したいチャンネルを、SELECT キーで選択する。

3 そのチャンネルのスティックまたはスイッチを設定したい方向に保持する。

● チャンネル No. の上に▲、または下に▼で方向が表示されます。

4 DATA レバーでレートを調整する。

- 設定範囲：
0～140% (初期値=100%)
- 他のチャンネルについても、上記2～4の操作をくりかえしてください。

* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

[TRIM] トリム

エルロン、エレベータ、スロットルおよびラダーのニュートラル調整に使用します。

- ここでの調整値とデジタルトリム操作による調整値は連動します。ただし、この TRIM 機能での調整は 1 ステップ間隔で、デジタルトリム操作の場合は 4 ステップ間隔で変化します。このため、TRIM 機能で微調整後、デジタルトリムを操作すると、0 に戻らないことがあります。

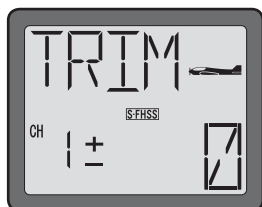
調整時の注意

トリムを大きくとりすぎると、最大操作時にサーボの動作範囲を超え、サーボが動作しない不感帯が発生します。トリム量はできるだけ少なくなるように、まずリンケージを工夫しましょう。

サーボニュートラルの調整

* 通常画面の状態では、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで TRIM 設定画面を呼び出す。



2 設定したいチャンネルを、SELECT キーで選択する。

3 DATA レバーでニュートラル位置を調整する。

- 設定範囲：-120 ~ 0 ~ +120 (初期値 = 0)
- 他のチャンネルについても、上記 2 ~ 3 の操作をくりかえしてください。

デジタルトリム操作時

トリムレバーを操作する毎に、約 3 秒間トリム位置が表示されます。下図はエルロンのトリムレバーを操作した場合の例です。



- デジタルトリムを操作した場合、4 ステップ間隔で変化します。
- 画面上、「DTRIM」の文字が点滅表示しているときはデジタルトリム側で調整中であることを示し、数値の文字が点滅しているときは TRIM 機能での調整中であることを示します。

* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

[STRM] サブトリム

リンケージ時のサーボ個々のニュートラル調整に使用するトリム機能です。ただし、リンケージでできるだけニュートラルを出すようにし、そのあとの微調整に使用します。

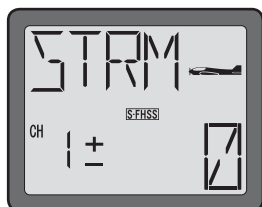
調整時の注意

トリムを大きくとりすぎると、最大操作時にサーボの動作範囲を超え、サーボが動作しない不感帯が発生します。トリム量はできるだけ少なくなるように、まずリンケージを工夫しましょう。

サーボニュートラルの調整

* 通常画面の状態、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで STRM 設定画面を呼び出す。



2 設定したいチャンネルを、SELECT キーで選択する。

3 DATA レバーでニュートラル位置を調整する。

- 設定範囲：-120 ~ 0 ~ +120 (初期値 = 0)
- 他のチャンネルについても、上記 2 ~ 3 の操作をくりかえしてください。

* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

[F/S] フェールセーフ (S-FHSS のみ)

(FHSS モード設定時は、この設定画面は表示されません。)

ノイズや混信等で正常な電波が受信できなくなった場合に、各チャンネルのサーボを予め設定した位置に動作させることができます。(フェールセーフ側)

また、受信できなくなる直前の位置に保持させることも可能です。(ノーマル側)

- 初期設定でCH3のみ F/S (15%) が設定されています。

警告

安全上、スロットルのフェールセーフ機能を必ず設定してください。飛行機の場合は最スロー、ヘリの場合はホバリング位置よりスロー側になるように設定します。

- 混信等で正しく電波を受信できなくなった場合に、フルハイで墜落すると大変危険です。

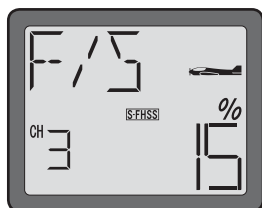
フェールセーフの設定

*通常画面の状態では、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで F/S 設定画面を呼び出す。



2 SELECT キーで設定したいチャンネルの設定画面を呼び出す。



- CH3 画面 (選択例)

(F/S ポジションの設定)

3 スロットルスティックを、電波が受信できなくなったときにサーボを動作させたい位置に保持し、DATA レバーを-側に長押しします。

- F/S ポジションが表示されます。

(ノーマル側への切替)

3 DATA レバーを+側に長押しして "NOR" 側に切り替えます。

- 通常、スロットルチャンネルはノーマル側はおすすめできません。F/S 側に設定し、安全な F/S ポジションを設定してください。

- 他のチャンネルについても、上記 2～3 の操作をくりかえしてください。

*設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

[TRNR] トレーナー機能

このトレーナー機能は、先生側の送信機と生徒側の送信機を専用のトレーナーコード（別売）で接続して使用し、先生側のスイッチ操作によって、交互に操作して操縦練習するための機能です。ただし、接続する送信機により、使用するトレーナーコードが異なります。

- 先生側にこの T6J-2.4GHz 送信機を使用した場合、チャンネル毎に動作モードが選択できます。(1～4CH：FNC/NOR/OFF、5～6CH：NOR/OFF)
- トレーナースイッチはスイッチ C を使用します。

[動作モード]

- ファンクションモード "FNC" :
このモードが設定されたチャンネルは、トレーナースイッチ ON 時、先生側の送信機で設定されているミキシングを利用して生徒側が操作可能。
- ノーマルモード "NOR" :
このモードが設定されたチャンネルは、トレーナースイッチ ON 時、生徒側で操作可能。生徒側の送信機の設定内容で動作します。
- OFF モード "OFF" :
このモードが設定されたチャンネルは、トレーナースイッチ ON 時も、生徒側では操作できません。先生側のみの操作となります。

[使用例]

- FNC モードを設定すると、先生側がヘリ用送信機の場合、生徒側が 4EX 送信機（飛行機用 4 チャンネル）でもヘリコプターのスティック操作の練習ができます。
- 生徒のレベルに合わせて練習したいチャンネルのみを NOR モードに設定し、他のチャンネルは OFF モードに設定して先生側が操作することが可能。

[注意事項]

- 生徒側送信機の高周波モジュールは必ず抜いておく。(モジュールタイプの場合)
- 生徒側送信機の電源スイッチは絶対に ON にしない。
- 生徒側送信機のモジュレーション（変調方式）は必ず PPM 方式に設定する。この T6J-2.4GHz 送信機を生徒側で使用する場合は、トレーナーコネクタからは常時 PPM モードの信号が出力されます。
- トレーナー機能を設定したら、飛行前に必ず先生側、生徒側の動作を確認してから飛行してください。
- T14MZ、T12Z、T12FG、T8FG 等の送信機と接続する場合、チャンネルの順序が異なります。チャンネルの順序を必ず合わせる必要があります。

[トレーナーコード]

接続は別売りのトレーナーコードを使用し、各送信機のトレーナージャックに差込みます。ただし、送信機により使用するトレーナーコードが異なります。使用する送信機に合わせてトレーナーコードを準備してください。

先生側送信機	生徒側送信機	トレーナーコード	備考
6J	10C, 9C, 7C, 6EX, 4EX	12FG トレーナーコード	昇圧回路付
	14MZ, 12Z, 12FG, 8FG, 6J	トレーナーコード (マイクロタイプ)	
14MZ, 12Z, 12FG, 8FG, 10C, 9C, 7C, 6EX, 4EX	6J		

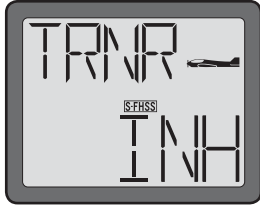
* T6J-2.4GHz 送信機の電源は乾電池 4 セル仕様のため、10C 等の 8 セル仕様の送信機を生徒側で使用する場合は、昇圧回路付の 12FG トレーナーコードが必要となります。

* 上記以外の組合せではご使用いただけません。(2011 年 4 月現在)

トレーナー機能（先生側）の設定

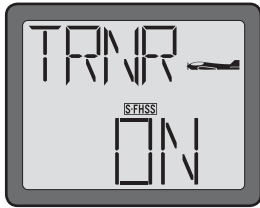
* 通常画面の状態では、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで TRNR 設定画面を呼び出す。



- TRNR の設定がすでに ON の場合、TRNR 設定画面を呼出すと、CH1 設定画面が最初に現れます。

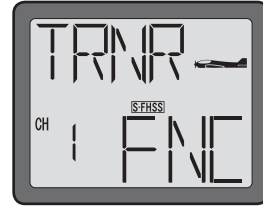
2 DATA レバーを + 側に長押しして、ON を点滅表示させる。



[操作スイッチに関する注意]

- トレーナー機能 ON 設定時、SwC はトレーナー操作が優先となります。
スロットル/ピッチカーブ (ACRO)、アイドルアップ (HELI) を使用する場合は、その機能用スイッチは別のスイッチに設定してください。

3 SELECT キーで CH1 設定画面を呼び出し、DATA レバーを + 側または - 側に押し、モードを選択する。



- 設定範囲：CH1 ~ 4 = FNC/NOR/OFF, CH5,6 = NOR/OFF
初期値：CH1 ~ 4 = FNC, CH5, 6 = OFF
- 他のチャンネルについても、上記の操作をくりかえしてください。

* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

[TIMR] タイマー

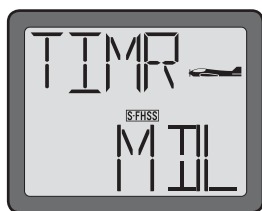
タイマーは競技会の規定時間や燃料満タンでの飛行可能時間等に合わせて使用すると便利です。

- モデル毎にタイマーを設定できます。モデルに合ったタイマー設定ができるため、モデルを変える度にタイマーを設定し直さなくても済みます。
- タイマーの種類は、モデルタイマー、アップタイマー、ダウンタイマーが選択できます。モデルタイマーはリセットした時点からのそのモデルの電源 ON 積算時間を示します。(最大 99 時間 59 分) アップタイマーは、0 からカウントアップされ、画面上に経過時間が表示されます。ダウンタイマーは、設定した時間からカウントダウンされ、画面上に残り時間が表示されます。設定時間経過後は、"- " 表示となり、カウントアップされます。(最大 19 分 59 秒) アップタイマー、ダウンタイマー共に最大 99 分 59 秒までの時間設定ができます。
- タイマーのスタート/ストップのスイッチとして、スイッチ (A, B, D) またはスロットルスティックを選択することができます。また、スイッチについては ON, OFF 方向の設定が可能です。その他、常時 ON が設定可能です。
- 初期画面の状態でセレクトキー (SELECT) を押すと、設定されたタイマーが表示されます。もう一度押すと、初期画面に戻ります。タイマーが表示されている状態で、データレバー (DATA) を長押しすると、タイマーはリセットされます。
- アラーム音：1 分毎に警告音「ピッ」、設定時間 10 秒前より 1 秒間隔の警告音「ピッ、ピッ、ピッ、・・・、ピー」で時間を知らせます。

タイマーの設定

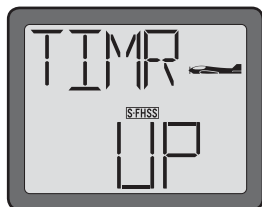
* 通常画面の状態では、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで TIMR 設定画面を呼び出す。

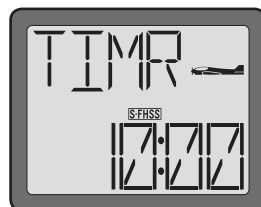


- UP または DN タイマーがすでに設定されている場合、TIMR 設定画面を呼出すと、時間設定画面が最初に現れます。

2 DATA レバーを + 側または - 側に押し、タイマーの種類を選択します。

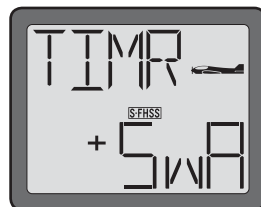


3 (UP または DN タイマーの場合) SELECT キーを 1 回押して "分" の設定項目を点滅させ、DATA レバーを + 側または - 側に押し、時間を設定する。再度 SELECT キーを押して、"秒" の設定項目を点滅させ、DATA レバーを + 側または - 側に押し、時間を設定する。



- 設定範囲：最大 99 分 59 秒
初期値：10 分

4 SELECT キーを押してスタート/ストップスイッチの設定画面を表示させ、DATA レバーでスイッチを選択する。



- 設定範囲：+SwA, -SwA, +SwB, -SwB, +SwD, -SwD, THR, ON (+ はスイッチ下側で ON、- は上側で ON、THR はスロットルスティック、ON は常時 ON)
初期値：+SwA

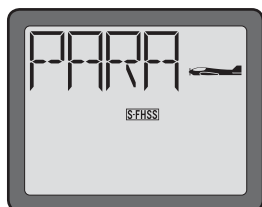
* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

[PARA] パラメータ機能

このパラメータサブメニューでは、データリセット、モデルタイプ選択、システムモード選択、スロットルカットのモード選択、およびバッテリーフェイルセーフのON/OFFの設定が可能です。

* 通常画面の状態では、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで PARA サブメニュー画面を呼び出す。



2 SELECT キーで PARA サブメニュー内の設定機能呼び出すことが可能です。

* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

[REST] データリセット

データリセット機能は現在呼出されているモデルメモリーの内容を初期の状態に戻したいときに使用します。

モデルメモリーのリセット方法

* PARA 画面の状態では次の設定を行います。

1 SELECT キーで REST 設定画面を呼び出す。



● 一旦リセット操作を実行すると、元の状態に戻すことはできません。

2 DATA レバーを+または-側へ長押しする。

- 「ピッピッ」という確認音が鳴って、リセットが完了したことを知らせます。途中で電源スイッチを切ると正常にリセットされません。

* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

[TYPE] ミキシングタイプ選択

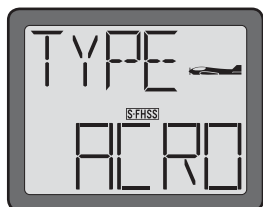
モデル毎にミキシングタイプ（ACRO または HELI）を選択することができます。機体のタイプに合わせて選択します。

* ACRO：飛行機の場合。 * HELI：ヘリの場合。

ミキシングタイプの変更方法

* PARA 画面の状態での設定を行います。

1 SELECT キーで TYPE 設定画面を呼び出す。



2 DATA レバーを+または-側へ長押しして、タイプを変更します。

- 交互にタイプが切り替わります。
- タイプを変更すると各機能は初期値となります。

*設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

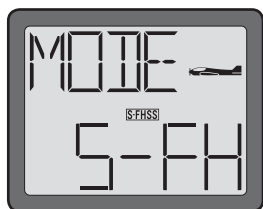
[MODE] システムモード選択

モデル毎にシステムモード（S-FHSS または FHSS）を選択することができます。ご使用の受信機のタイプに合わせて選択します。

システムモードの変更方法

* PARA 画面の状態での設定を行います。

1 SELECT キーで MODE 設定画面を呼び出す。



2 DATA レバーを+または-側へ長押しして、モードを変更します。

*システムモードを変更後、電源を入れ直した時点で出力モードが切り替わります。

[TCUT] スロットルカット動作モード選択

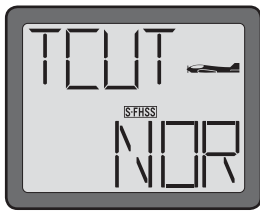
スロットルカット機能はプッシュボタン（THR-CUT）によりエンジンを停止させる機能です。スロットルカットボタンを操作することによって、トリム位置に関係なく、スティック+トリムの最スロー位置にサーボが固定されます。この設定画面では、動作モードが選択できます。

- NOR モード（エンジン機推奨）は THR-CUT ボタンを押している間、エンジンが最スロー位置に固定されます。
- ESC モード（電動機推奨）は THR-CUT ボタンを長押しすると最スロー位置を保持するモードです。スロットルスティック最スロー位置で、再度、長押しで解除されます。ESC モードで動作中、一定間隔でブザー音（ピピッ）が表示されます。

動作モードの変更方法

* PARA 画面の状態ですべての設定を行います。

1 SELECT キーで TCUT 設定画面を呼び出す。



2 DATA レバーを+または-側へ長押しして、モードを変更します。

- 設定範囲：NOR、ESC
- 初期値：NOR

* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

スロットルカットの設定

- * スロットルカットボタンでエンジンを停止させるために、予め下記の調整が必要です。
- * この機能の設定画面はありません。

1 送信機、受信機の電源を ON にする。

2 スロットルスティックが最スロー側の状態で、スロットルカットボタンを操作する。

3 このときにエンジンのキャブレター位置が全閉状態になっていることを確認してください。

- 必要に応じて、3ch 目の EPA 機能を使用して、スロットルカット機能が働いた時に全閉状態となるように調整する。

[BF/S] バッテリーフェイルセーフ ON/OFF

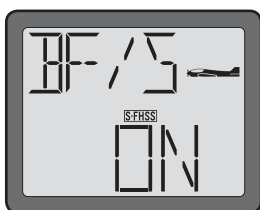
バッテリーフェイルセーフ機能の ON/OFF を選択することができます。

- バッテリーフェイルセーフ機能が ON に設定（初期設定）してある場合で、バッテリーフェイルセーフ機能が作動時、スロットルスティックをスロー側に操作することにより、バッテリーフェイルセーフ動作を一時的に解除することができます。（約 30 秒後に再度バッテリーフェイルセーフ機能が作動します。）

ON/OFF の設定

* PARA 画面の状態ですべての設定を行います。

1 SELECT キーで BF/S 設定画面を呼び出す。



2 DATA レバーを+または-側へ長押しして、ON/OFF を変更します。

* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

[BATT] ローバッテリー警告電圧の選択

使用する送信機バッテリーに応じて、ローバッテリー警告電圧を変更する機能です。

- 乾電池の場合は 4.2V、ニッケル水素電池の場合は 5V に設定します。

警告電圧の変更方法

- 1 MODE キーと END キーを同時に押しながら、送信機の電源スイッチを入れる。



- 設定画面が呼び出されます。

- 2 DATA レバーを+または-側へ長押しして、電圧を変更します。

- 設定範囲：
4.2V、5V（初期値 = 4.2V）

*設定が終了したら、電源スイッチを切ります。

[STCK] スティックモード

送信機のスティックモードを変更する機能です。

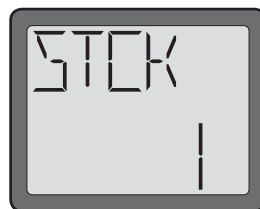
ただし、スロットルスティックのラチェット機構等は変更されないため、この機能でモード変更しただけではご使用いただけない場合があります。

スティックモードの変更方法

- 1 MODE キーと END キーを同時に押しながら、送信機の電源スイッチを入れる。



- 2 SELECT キーを押して、STCK 設定画面を呼び出す。



- 2 DATA レバーでモード No. を選択する。

- 設定範囲：
モード 1～4（初期値 = モード 1）

*設定が終了したら、電源スイッチを切ります。

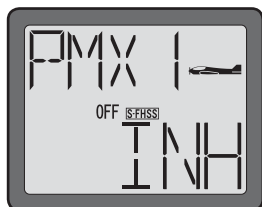
[PMX1-2] プログラムミキシング (ACRO のみ)

任意のチャンネル間でミキシングをかけることができます。機体のクセ取りや、操縦を楽にする目的で使用します。2回路設定できます。(PMX1、PMX2)

ミキシングの設定

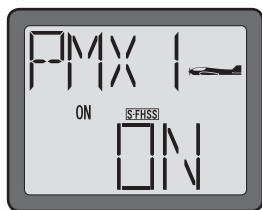
* 通常画面の状態、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで PMIX 設定画面を呼び出す。

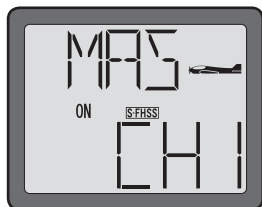


- P.MIX の設定がすでに ON の場合、P.MIX 設定画面を呼び出すと、5 項のミキシング量の設定画面が最初に現れます。

2 DATA レバーを+側に長押しして、ON を点滅表示させる。



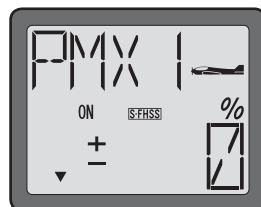
3 SELECT キーでマスターチャンネルの選択画面を呼び出し、DATA レバーを+側または-側に押し、マスターチャンネルを選択する。



4 SELECT キーでスレーブチャンネルの選択画面を呼び出し、DATA レバーを+側または-側に押し、スレーブチャンネルを選択する。



5 SELECT キーでミキシング量の設定画面を呼び出し、DATA レバーを+側または-側に押し、ミキシング量を調整する。

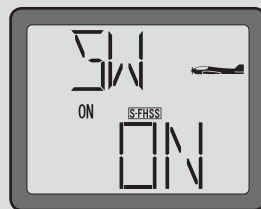


- マスター側スティック等の各方向を個別にレート調整できます。レート表示の前の▲または▼でスティック等の方向が表示されます。
- 設定値の極性によりミキシング方向が変わります。
- 設定範囲：-100 ~ 0 ~ +100% (初期値 = 0%)

(スイッチを変更する場合)

* PMX1 設定画面を呼び出した状態で、次の設定を行います。

1 SELECT キーで下記のスイッチ設定画面を選択する。



2 DATA レバーを+または-側へ押し、スイッチを選択する。

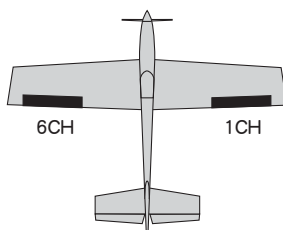
- 選択範囲：ON (常時 ON: 初期設定)、+SwA (SwA 上側)、-SwA (SwA 下側)、+SwB (SwB 上側)、-SwB (SwB 下側)、+SwD (SwD 上側)、-SwD (SwD 下側)

* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

[FLPR] フラップロン (ACRO のみ)

エルロンに左右2個のサーボを使用し、エルロンにフラップ機能を持たせるミキシングです。

- エルロン動作と共に左右のエルロンを同時に上げ下げできる機能です。
- エルロン差動量を調整できます。
- フラップロン機能を ON にすると、フラップトリム機能も連動して ON となります。ただし、トリムレートの初期値は 0%。
- 2nd エルロンのチャンネルが選択できます。



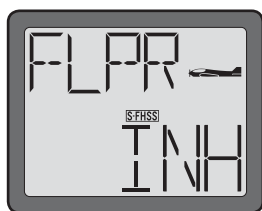
*各サーボの動作方向が逆の場合はサーボリバース機能で合わせます。

*フラップロン、エレポンは組み合わせ動作はできません。

ミキシングの設定

*通常画面の状態では、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで **FLPR** 設定画面を呼び出す。

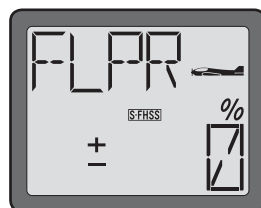


- FLPR の設定がすでに ON の場合、FLPR 設定画面を呼出すと、エルロン差動量の設定画面が最初に現れます。

2 DATA レバーを+側に長押しして、ON を点滅表示させる。



3 SELECT キーでエルロン差動量の設定画面を呼び出し、**DATA** レバーを+側または-側に押し、差動量を調整する。



- 設定値の極性によりミキシング方向が変わります。
- 設定範囲：-100 ~ 0 ~ +100% (初期値 = 0%)

4 SELECT キーで2nd エルロンチャンネルの選択画面を呼び出し、**DATA** レバーを+側または-側に押し、2nd エルロンのチャンネルを選択する。



- 選択範囲：CH3, CH4, CH5, CH6 (初期設定)
CH3 ~ CH5 選択時、エルロン差動動作のみとなります。

*設定が終了したら、**END** キーを長押しして、通常画面に戻します。

[FLTR] フラップトリム (ACRO のみ)

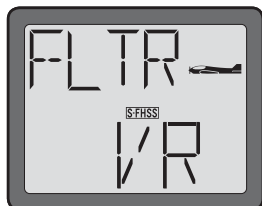
6チャンネル目のボリュームツマミまたはスイッチ操作をトリム動作にする機能です。

- フラップ操作のボリュームツマミまたはスイッチが選択できます。
- フラップベロン機能を ON にすると、フラップトリム機能も連動して ON となります。ただし、トリムレートの初期値は 0%。

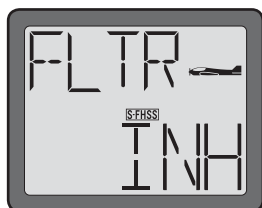
フラップトリムの設定

* 通常画面の状態では、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

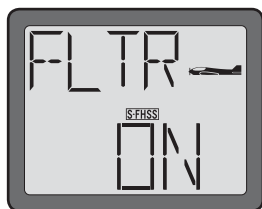
1 FUNC キーで FLTR 設定画面を呼び出す。



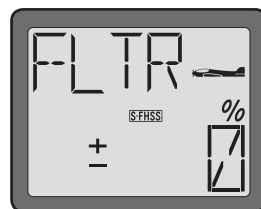
2 SELECT キーでフラップトリム機能の ON/OFF 設定画面を呼び出す。



3 DATA レバーを+側に長押しして、ON を点滅表示させる。



4 SELECT キーでトリムレートの設定画面を呼び出し、DATA レバーを+側または-側に押し、レートを調整する。

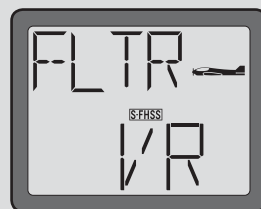


- 設定値の極性によりトリムの動作方向が変わります。
- フラップ操作にスイッチを選択している場合、スイッチの各方向のレートが調整できます。レートの前に ▲または▼でスイッチの方向が表示されます。
- 設定範囲：-100 ~ 0 ~ +100% (初期値 = 0%)

(ツマミからスイッチに変更する場合)

* FLTR 設定画面を呼び出した状態で、次の設定を行います。

1 SELECT キーで下記のボリューム/スイッチ選択画面を選択する。



2 DATA レバーを+または-側へ押し、ボリュームまたはスイッチを選択する。

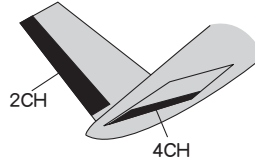
- 設定範囲：VR, SwA, SwB, SwD (初期値 = VR)

* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

[V-TL] V テール (ACRO のみ)

エレベーターとラダー機能を組み合わせた V 尾翼機に使用するミキシングです。

- 2CH、4CH のレートを開々に調整できます。



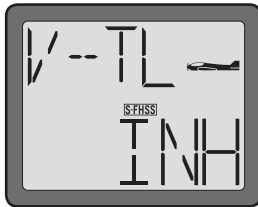
*各サーボの動作方向が逆の場合はサーボリバー機能で合わせます。

*Vテール、エレポンは組み合わせ動作はできません。

V テールの設定

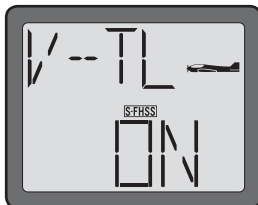
*通常画面の状態、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで V-TL 設定画面を呼び出す。

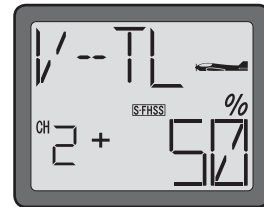


- V-TL の設定がすでに ON の場合、V-TL 設定画面を呼出すと、レート設定画面が最初に現れます。

2 DATA レバーを+側に長押しして、ON を点滅表示させる。

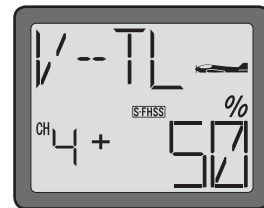


3 SELECT キーで CH2 側のレート設定画面を呼び出し、DATA レバーを+側または-側に押し、レートを調整する。



- 設定値の極性により動作方向が変わります。
- 設定範囲：-100 ~ 0 ~ +100% (初期値 = +50%)

3 SELECT キーで CH4 側のレート設定画面を呼び出し、DATA レバーを+側または-側に押し、レートを調整する。



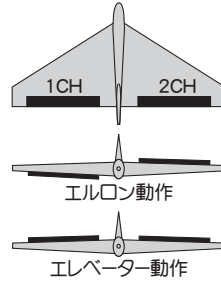
- 設定値の極性により動作方向が変わります。
- 設定範囲：-100 ~ 0 ~ +100% (初期値 = +50%)

*設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

[ELVN] エレボン (ACRO のみ)

エルロンとエレベーターの機能を組み合わせたデルタ翼機、無尾翼機、円盤機等に使用するミキシングです。サーボは右側エルロン 2CH(ELE)、左側エルロンは 1CH(AIL) に接続してください。

- 1CH、2CH のレートを個々に調整できます。



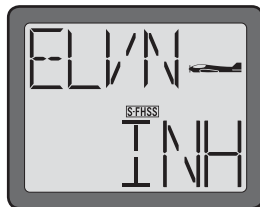
*各サーボの動作方向が逆の場合はサーボリバー機能で合わせます。

*フラップオン、Vテール、エレボン機能は組み合わせ動作はできません。

エレボンの設定

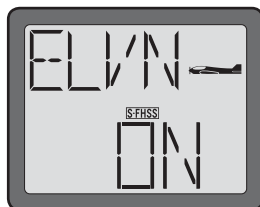
*通常画面の状態では、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで ELVN 設定画面を呼び出す。



- ELVN の設定がすでに ON の場合、ELVN 設定画面を呼出すと、レート設定画面が最初に現れます。

2 DATA レバーを+側に長押しして、ON を点滅表示させる。

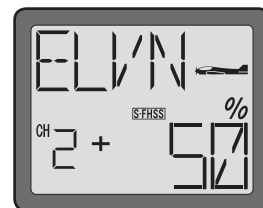


3 SELECT キーで CH1 側のレート設定画面を呼び出し、DATA レバーを+側または-側に押し、レートを調整する。



- 設定値の極性により動作方向が変わります。
- 設定範囲：-100 ~ 0 ~ +100% (初期値 = +50%)

3 SELECT キーで CH2 側のレート設定画面を呼び出し、DATA レバーを+側または-側に押し、レートを調整する。



- 設定値の極性により動作方向が変わります。
- 設定範囲：-100 ~ 0 ~ +100% (初期値 = +50%)

*設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

[T-CV] スロットルカーブ (ACRO のみ)

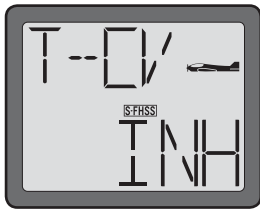
このスロットルカーブおよび次頁のピッチカーブは、VPP 可変ピッチプロペラに使用可能です。

- スイッチのアップ側、ダウン側の2つのカーブが設定できます。
- スイッチを変更することができます。(初期設定：SWC)

カーブの設定

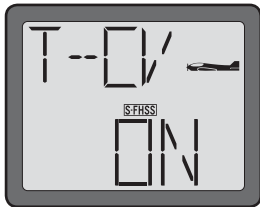
*通常画面の状態では、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで T-CV 設定画面を呼び出す。



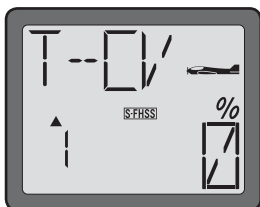
- T-CV の設定がすでに ON の場合、T-CV 設定画面を呼出すと、レート設定画面が最初に現れます。

2 DATA レバーを+側に長押しして、ON を点滅表示させる。



3 設定したい方向にスイッチを切り替えます。

4 SELECT キーで設定したいポイント(1~5)を選択する。



- ポイント No. の上に▲、または下に▼でスイッチ方向が表示されます。

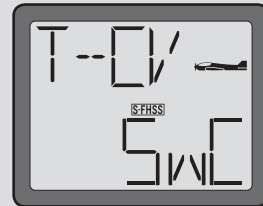
5 DATA レバーで動作量を調整する。

- 設定範囲：0 ~ 100% (初期値 = 0%, 25%, 50%, 75%, 100%)
- 他のポイントについても、上記 4 ~ 5 の操作をくりかえしてください。
- スイッチの別の方向についても、上記 3 ~ 5 の操作をくりかえしてください。

(スイッチを変更する場合)

* T-CV 設定画面を呼び出した状態で、次の設定を行います。

1 SELECT キーで下記のスイッチ選択画面を選択する。



2 DATA レバーを+または-側へ押ししてスイッチを選択する。

- 選択範囲：SwA、SwB、SWC (初期設定)

* トレーナー機能が ON の場合は、SwC では切替できません。

* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

[P-CV] ピッチカーブ (ACRO のみ)

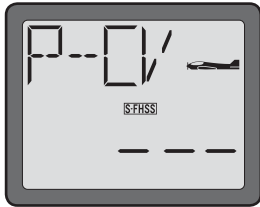
このピッチカーブは VPP 可変ピッチプロペラに使用可能です。

- ただし、前頁のスロットルカーブを有効にしないと、このピッチカーブを有効にすることはできません。
- ピッチカーブはスロットルカーブで設定したスイッチのアップ側、ダウン側の 2 つのカーブが設定できます。

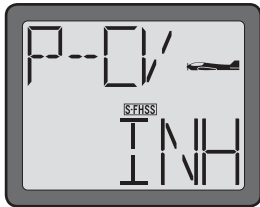
カーブの設定

*通常画面の状態、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで P-CV 設定画面を呼び出す。

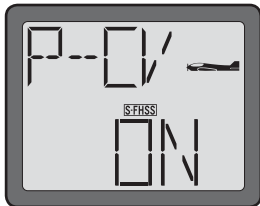


- この P-CV 機能は予め T-CV 機能が ON になっている場合に使用可能です。T-CV 機能が ON になっていない場合、上記画面が現われます。



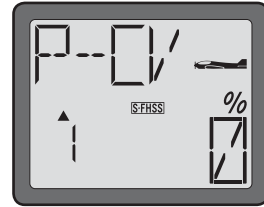
- P-CV の設定がすでに ON の場合、P-CV 設定画面を呼出すと、レート設定画面が最初に現れます。

2 DATA レバーを+側に長押しして、ON を点滅表示させる。



3 設定したい方向にスイッチを切り替えます。

4 SELECT キーで設定したいポイント (1 ~ 5) を選択する。



- ポイント No. の上に▲、または下に▼でスイッチ方向が表示されます。

5 DATA レバーで動作量を調整する。

- 設定範囲：0 ~ 100% (初期値 = 0%, 25%, 50%, 75%, 100%)
- 他のポイントについても、上記 4 ~ 5 の操作をくりかえしてください。
- スイッチの別の方向についても、上記 3 ~ 5 の操作をくりかえしてください。

*設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

[N-TH] スロットルカーブ／ノーマル (HELI のみ)

スロットルカーブはスロットルスティックの動きに対し、エンジン回転が最良の飛行状態になるように、5ポイントのカーブが設定でき、各ポイントとも0～100%の範囲で調整できます。

このスロットルカーブ（ノーマル）はアイドルアップおよびスロットルホールドスイッチがともにOFFの場合に働きます。

ノーマルカーブの調整方法

ホバリングを中心とした基本的なスロットルカーブを作ります。ピッチカーブ（ノーマル）との兼ね合いで、エンジン回転が一定で、上下のコントロールが一番やりやすくなるように調整します。

設定例：ポイント1 = 0% / ポイント2 = 30% / ポイント3 = 50% / ポイント4 = 65% / ポイント5 = 100%

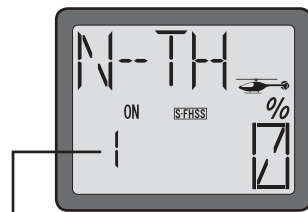
この設定は、ホバリング（3ポイント目）を基準に前後を寝かせたカーブで、ホバリング付近を鈍くしてあります。

ホバリング時のレスポンス、回転数を見ながら、2、3、4ポイントで調整します。ピッチとの兼ね合いもあるので合わせて考えてください。

カーブの設定

* 通常画面の状態、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで N-TH 設定画面を呼び出す。



●ポイント1を示します。

2 SELECT キーで設定したいポイント(1～5)を選択する。

3 DATA レバーで動作量を調整する。

- 設定範囲：
0～100%（初期値 = 0%, 25%, 50%, 75%, 100%）
- 他のポイントについても、上記2～3の操作をくりかえしてください。

* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

[N-PI] ピッチカーブ／ノーマル (HELI のみ)

ピッチカーブはスロットルスティックの動きに対し、ピッチが最良の飛行状態になるように、5ポイントのカーブが設定でき、各ポイントとも0～100%の範囲で調整できます。

このピッチカーブ（ノーマル）はアイドルアップおよびスロットルホールドスイッチがともにOFFの場合に働きます。

ノーマルカーブの調整方法

ホバリングを中心とした基本的なピッチカーブを作ります。スロットルカーブ（ノーマル）との兼ね合いで、エンジン回転が一定で、上下のコントロールが一番やりやすくなるように調整します。

設定例：ポイント1 = 15% / ポイント2 = 30% / ポイント3 = 53% / ポイント4 = 75% / ポイント5 = 85%

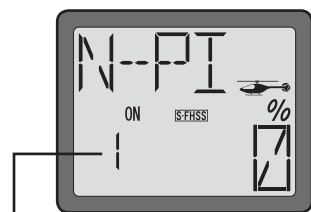
ホバリング時のピッチは約 +5～6° にします。

この設定は、立ち上がりガスロー側で早く、ハイ側が遅くなるカーブです。

カーブの設定

* 通常画面の状態では、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで N-PI 設定画面を呼び出す。



●ポイント1を示します。

2 SELECT キーで設定したいポイント(1～5)を選択する。

3 DATA レバーで動作量を調整する。

- 設定範囲：
0～100% (初期値 = 0%, 25%, 50%, 75%, 100%)
- 他のポイントについても、上記2～3の操作をくりかえしてください。

* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

[I-TH] スロットルカーブ/アイドルアップ (HELIのみ)

スロットルカーブはスロットルスティックの動きに対し、エンジン回転が最良の飛行状態になるように、5ポイントのカーブが設定でき、各ポイントとも0～100%の範囲で調整できます。

この設定画面で、スロットルカーブ(アイドルアップ)を有効にすると、ピッチカーブ(アイドルアップ)も連動して有効となります。スロットルカーブ(アイドルアップ)はアイドルアップスイッチがON(ただし、スロットルホールドスイッチがOFF)の場合に働きます。

アイドルアップカーブの調整方法

上空飛行でピッチを減らす操作をした時でも、エンジンが常に一定回転を保てるように、アイドルアップカーブを設定します。

設定例：ポイント1 = 56% / ポイント2 = 54% / ポイント3 = 50% / ポイント4 = 75% / ポイント5 = 100%

スロットルスティックをスロー側にしても回転を維持する設定となります。

注意

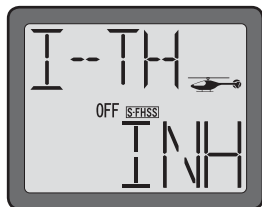
スロットルホールド機能はアイドルアップ機能より優先します。エンジン始動時はアイドルアップスイッチ、スロットルホールドスイッチがOFFになっていることを必ず確認する。

電源ON時アイドルアップスイッチまたはスロットルホールドスイッチがONになっていると、警告音とともに画面上に "MIX" が点滅表示されます。スイッチをOFF側にしてください。

カーブの設定

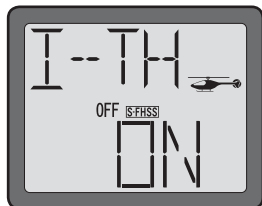
* 通常画面の状態では、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで I-TH 設定画面を呼び出す。

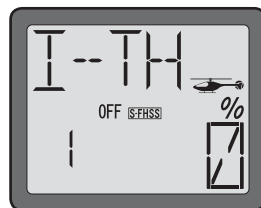


● I-TH の設定がすでに ON の場合、I-TH 設定画面を呼出すと、レート設定画面が最初に現れます。

2 DATA レバーを+側に長押しして、ON を点滅表示させる。



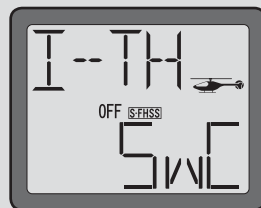
3 SELECT キーで設定したいポイント (1～5) を選択し、DATA レバーで動作量を調整する。



- 設定範囲：0～100% (初期値 = 0%, 25%, 50%, 75%, 100%)
- 他のポイントについても、上記の操作をくりかえしてください。

(スイッチを変更する場合)

1 SELECT キーで下記のスイッチ選択画面を選択する。



2 DATA レバーを+または-側へ押ししてスイッチを選択する。

- 選択範囲：SwA、SwB、SwC (初期設定)
- * トレーナー機能がONの場合は、SwCでは切替できません。

* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

[I-PI] ピッチカーブ／アイドルアップ (HELI のみ)

ピッチカーブはスロットルスティックの動きに対し、ピッチが最良の飛行状態になるように、5ポイントのカーブが設定でき、各ポイントとも0～100%の範囲で調整できます。

スロットルカーブ(アイドルアップ)を有効にしないと、このピッチカーブ(アイドルアップ)も有効になりません。ピッチカーブ(アイドルアップ)はアイドルアップスイッチがON(ただし、スロットルホールドスイッチがOFF)の場合に働きます。

アイドルアップカーブの調整方法

ハイ側ピッチカーブはエンジンに負担のかからない最大のピッチを設定します。ロー側ピッチカーブはループ等に合ったカーブを作ります。

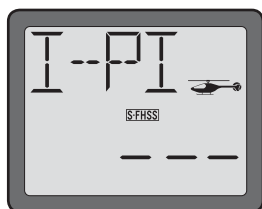
設定例：ポイント1 = 15% / ポイント2 = 30% / ポイント3 = 45% / ポイント4 = 55% / ポイント5 = 70%

ポイント1、2をノーマルと同じ設定値とし、ホバリングよりハイ側は使用エンジンに合わせて調整してください。

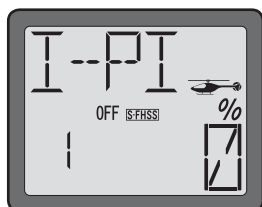
カーブの設定

* 通常画面の状態、MODEキーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNCキーでI-PI設定画面を呼び出す。



- このI-PI機能は予めI-THがONになっている場合に使用可能です。I-THがONになっていない場合、上記画面が現われます。



2 SELECTキーで設定したいポイント(1～5)を選択し、DATAレバーで動作量を調整する。

- 設定範囲：0～100% (初期値 = 0%, 25%, 50%, 75%, 100%)
- 他のポイントについても、上記の操作をくりかえしてください。

* 設定が終了したら、ENDキーを長押しして、通常画面に戻します。

[HOLD] スロットルホールド (HELI のみ)

スロットルホールド機能は、オートローテーション降下を行う時に、スロットルホールドスイッチを操作することにより、エンジンのスロットル位置をアイドル位置に固定させる機能です。スロートリム位置付近を基準に、-50 ~ +50% の範囲に設定できます。

⚠ 注意

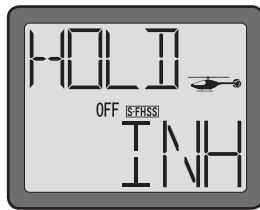
❗ スロットルホールド機能はアイドルアップ機能より優先します。エンジン始動時はアイドルアップスイッチ、スロットルホールドスイッチが OFF になっていることを必ず確認する。

❗ 電源 ON 時アイドルアップスイッチまたはスロットルホールドスイッチが ON になっていると、警告音とともに画面上に "MIX" が点滅表示されます。スイッチを OFF 側にしてください。

ホールド位置の設定

* 通常画面の状態、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで I-TH 設定画面を呼び出す。

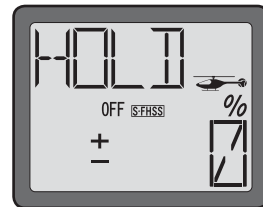


● HOLD 機能の設定がすでに ON の場合、設定画面を呼出すと、ホールド位置の設定画面が最初に現れます。

2 DATA レバーを + 側に長押しして、ON を点滅表示させる。



3 SELECT キーを押して、ホールド位置の設定画面を呼び出す。



4 スロットルホールドスイッチを ON にした状態で、DATA レバーでアイドル位置に調整する。

- 設定範囲：
-50 ~ 0 ~ +50% (初期値 = 0%)
- アイドリングを下げたいときまたは停止させたいときは、- 方向にセットし、キャブレターが全閉となるように調整します。
- アイドリングを維持する場合は、スロットルスティックを最スローの位置にし、スロットルホールドスイッチを ON/OFF して、サーボが動かない位置に調整します。

* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

[H-PI] ピッチカーブ／ホールド (HELI のみ)

ピッチカーブはスロットルスティックの動きに対し、ピッチが最良の飛行状態になるように、5ポイントのカーブが設定でき、各ポイントとも0～100%の範囲で調整できます。

スロットルホールド機能を有効にしないと、このピッチカーブ（ホールド）も有効になりません。ピッチカーブ（ホールド）はスロットルホールドスイッチがONの場合に働きます。

スロットルホールドカーブの調整方法

スロットルホールドカーブは、オートローテーション降下を行うときに使用します。中間のピッチ設定は、ピッチアップ時のスティックワークに合わせて設定してください。

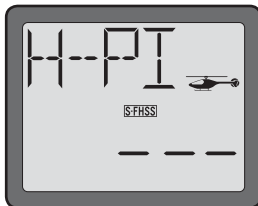
設定例：ポイント1 = 0% / ポイント2 = 25% / ポイント3 = 50% / ポイント4 = 75% / ポイント5 = 100%

初期設定のリニアなカーブから調整してください。

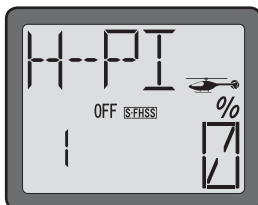
カーブの設定

* 通常画面の状態では、**MODE** キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで I-PI 設定画面を呼び出す。



- この I-PI 機能は予め I-TH が ON になっている場合に使用可能です。I-TH が ON になっていない場合、上記画面が現われます。



2 SELECT キーで設定したいポイント (1～5) を選択し、DATA レバーで動作量を調整する。

- 設定範囲：
0～100% (初期値 = 0%, 25%, 50%, 75%, 100%)
- 他のポイントについても、上記の操作をくりかえしてください。

* 設定が終了したら、**END** キーを長押しして、通常画面に戻します。

[REVO] リポリューションミキシング (HELI のみ)

リポリューションミキシングはメインローターのピッチ、および回転数に応じて発生する反動トルク（メインローターの回転方向と反対の方向に胴体を回そうとする力）を抑えるためのミキシングで、メインローターのピッチが変化し反動トルクが発生したとき、テールローターのピッチを変化させ、ラダー方向の機首振りが出ないように調整を取ります。

● AVCS ジャイロを使用する場合、AVCS モード時はリポリューションミキシングは使用しないでください。

調整手順

最初にホバリング飛行で機体および送信機のトリムを取り、ニュートラルを出しておく。

ロー側の調整：

離陸からホバリング、ホバリングから離陸を自分のリズムに合った一定レートで繰り返し、スロットルの上げ下げで機首を振らないように調整します。ホバリングから着陸する時に機首が左に向く場合、または離陸時に機首が左に向き、ホバリングでは安定し、スティックがニュートラルになる場合は、ロー側のミキシング量が多く、反対に向く場合はミキシング量が少ないことが考えられます。離陸の場合、地上の状態により機首方向が安定しない場合があります。また、ローターの回転が上がらない場合も機首方向が不安定になります。

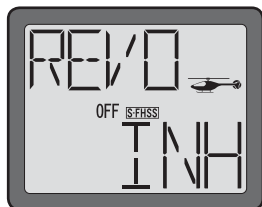
ハイ側の調整：

ホバリングから上昇、降下し、ホバリングまでを自分のリズムに合った一定のレートで繰り返し、スロットルの上げ下げで機首を振らないように調整します。ホバリングから上昇する時機首が右に向く場合、ハイ側のミキシング量が多く、左に向くときはミキシング量が少なすぎます。上昇、降下を繰り返しバランスをとりながら調整します。

ミキシングの調整

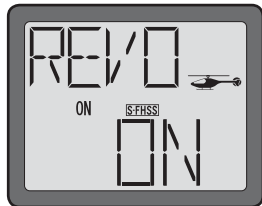
* 通常画面の状態では、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで REVO 設定画面を呼び出す。



● REVO 機能の設定がすでに ON の場合、設定画面を呼出すと、ミキシング量設定画面が最初に現れます。

2 DATA レバーを + 側に長押しして、ON を点滅表示させる。



3 SELECT キーを押して、ロー側またはハイ側のミキシング量の設定画面を呼び出す。



- 上矢印：ハイ側設定画面を示す。
- 下矢印：ロー側設定画面を示す。

4 DATA レバーでミキシング量を調整する。

- 設定範囲：
-100 ~ +100% (初期値 = ロー側 -20%、ハイ側 -10%)
- 極性に注意してください。
- ロー側およびハイ側を 3 ~ 4 項を繰り返して設定します。

* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

[GYRO] ジャイロミキシング (HELI のみ)

送信機側からジャイロ感度を調整するミキシングです。

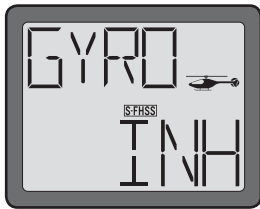
このミキシングはジャイロの感度調整入力コネクタを受信機の 5CH 目出力に接続して使用します。5CH 目スイッチの両方向で感度を調整できます。

- 調整値と実際のジャイロ感度との関係は、使用するジャイロの取扱説明書をご参照ください。
- 外部からジャイロ感度を調整できないジャイロの場合はこのミキシングは使用できません。(G190、GY240 等)

ジャイロ感度の調整

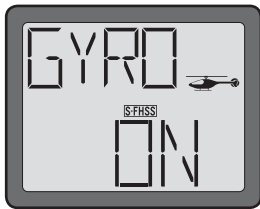
* 通常画面の状態では、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで GYRO 設定画面を呼び出す。

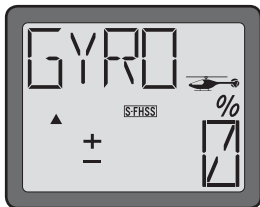


- REVO 機能の設定がすでに ON の場合、設定画面を呼出すと、ミキシング量設定画面が最初に現れます。

2 DATA レバーを + 側に長押しして、ON を点滅表示させる。



3 SELECT キーを押して、アップ側またはダウン側のジャイロ感度設定画面を呼び出す。



- 上矢印：アップ側設定画面を示す。
- 下矢印：ダウン側設定画面を示す。

4 DATA レバーでミキシング量を調整する。

- 設定範囲：
-100 ~ +100% (初期値 = 0%)
- アップ側およびダウン側を 3 ~ 4 項を繰り返して設定します。

(スイッチを変更する場合)

* GYRO 設定画面を呼び出した状態で、次の設定を行います。

1 SELECT キーで下記のスイッチ選択画面を選択する。



2 DATA レバーを + または - 側へ押し、スイッチを選択する。

- 選択範囲：SwA、SwB、IDL (アイドルアップ連動)
初期設定：SwA

* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

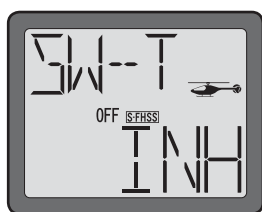
[SW-T] スワッシュ→スロットルミキシング (HELI のみ)

この機能はエルロン、エレベーターおよびラダー操作時のスワッシュプレート動作によって生じる機体の沈み込みを補正するミキシングです。

スワッシュ→スロットルミキシング

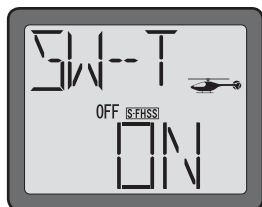
* 通常画面の状態では、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで SW-T 設定画面を呼び出す。

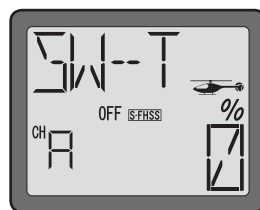


- SW-T 機能の設定がすでに ON の場合、設定画面を呼出すと、ミキシング量設定画面が最初に現れます。

2 DATA レバーを+側に長押しして、ON を点滅表示させる。



3 SELECT キーを押して、エルロン、エレベーターまたはラダーのミキシング量設定画面を呼び出す。



- A : エルロン側の設定画面を示す。
- E : エレベーター側の設定画面を示す。
- 4 : ラダー側の設定画面を示す。

4 DATA レバーでミキシング量を調整する。

- 設定範囲 :
エルロン/エレベーター : 0 ~ 100% (初期値 = 0%)
ラダー : -100 ~ +100% (初期値 = 0%)
- エルロン、エレベーター、ラダーについて、3 ~ 4 項を繰り返して設定します。

* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

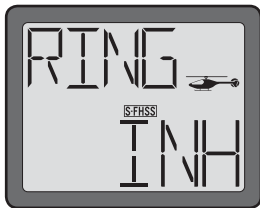
[RING] スワッシュリング (HELIのみ)

このスワッシュリング機能は、エルロンとエレベータの同時操作によるスワッシュリンクージの破損を防ぐため、スワッシュ動作量を一定範囲に制限する機能です。舵角を大きく取る 3D 演技などに有効です。

スワッシュリングの設定

* 通常画面の状態では、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで RING 設定画面を呼び出す。

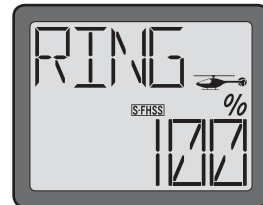


- RING 機能の設定がすでに ON の場合、設定画面を呼出すと、レート設定画面が最初に現れます。

2 DATA レバーを + 側に長押しして、ON を点滅表示させる。

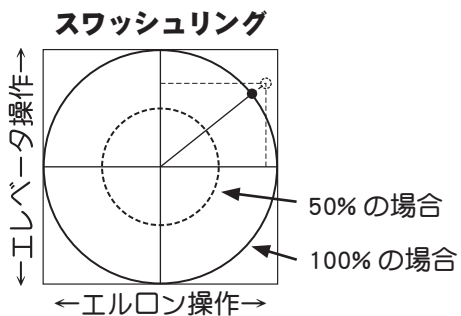


3 SELECT キーを押して、レート設定画面を呼び出す。



4 DATA レバーでミキシング量を調整する。

- 設定範囲：
0 ~ 200% (初期値 = 100%)
- エルロンおよびエレベータスティックの操作は下図円内 (スワッシュリング) の範囲に制限されます。(レート 100% の場合)



* スワッシュリングのレートはリンクージロッドが干渉しない、スワッシュの傾き最大量に調整してください。

* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

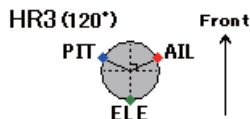
[SWSH] スワッシュ設定 (HELIのみ)

スワッシュタイプの選択

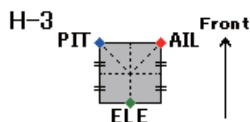
機体のスワッシュプレートのタイプに合わせて選択します。

H-1 タイプ：ノーマルリンクージ機体の場合。

HR3 タイプ：下図のスワッシュプレートの場合。



H-3 タイプ：下図のスワッシュプレートの場合。



HE3 タイプ：下図のスワッシュプレートの場合。



スワッシュ AFR の調整

HR3、H-3 または HE3 タイプを選択した場合、エルロン (A)、エレベータ (E)、およびピッチ (P) の各ファンクションに対して舵角を調整できます。(H-1 タイプの場合はこの機能は表示されません。)

* 動作方向が逆の場合は AFR 設定値の極性を反転してください。

スワッシュ設定

* 通常画面の状態では、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで SWSH 設定画面を呼び出す。

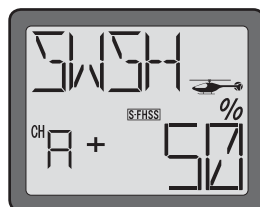


- SWSH 機能の設定が H-1 以外に設定されている場合、設定画面を呼び出すと、AFR 設定画面が最初に現れます。

2 DATA レバーを + 側または - 側に長押しして、スワッシュタイプを選択する。



3 SELECT キーを押して、エルロン、エレベータまたはピッチの AFR 量設定画面を呼び出す。



- A：エルロンの設定画面を示す。
- E：エレベータの設定画面を示す。
- P：ピッチの設定画面を示す。

4 DATA レバーで舵角を調整する。

- 設定範囲：
-100 ~ +100% (初期値 = +50%)
ただし、50% が基本の舵角です。50% 前後で調整してください。
- 他のファンクションについても設定してください。

* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

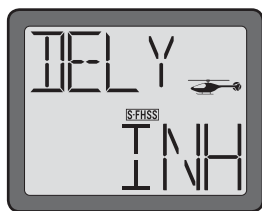
[DELY] デイレイ (HELI のみ)

アイドルアップカーブへ移行時に、スロットルおよびピッチサーボのデイレイを設定できます。アイドルアップ機能 ON 時の急激なオフセット変化を防止するための機能です。

デイレイの設定

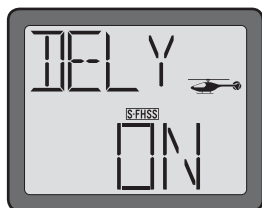
* 通常画面の状態では、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで DELY 設定画面を呼び出す。

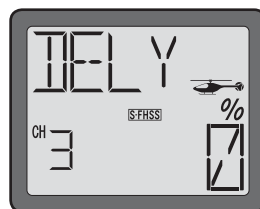


- DELY 機能がすでに設定されている場合、設定画面を呼出ると、レート設定画面が最初に現れます。

2 DATA レバーを+側に長押しして、ON を点滅表示させる。



3 SELECT キーを押して、スロットルまたはピッチのデイレイ量設定画面を呼び出す。



- 3 : スロットルの設定画面を示す。
- 6 : ピッチの設定画面を示す。

4 DATA レバーでデイレイ量を調整する。

- 設定範囲 : 0 ~ 50% (最大)
初期値 = 0%
- 他のファンクションについても設定してください。

* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

[HOVP] ホバリングピッチ (HELI のみ)

ホバリングピッチは、ホバリングポイント付近のピッチのトリム機能です。ホバリングピッチツマミを右に回すと、ピッチが強くなり、左に回すとピッチが弱くなります。温度、湿度等飛行条件等の変化に伴うローター回転数の変化に対し微調整ができます。ローター回転が一番安定するように調整してください。

- ノーマルコンディションでのみ作動またはノーマル/アイドルアップコンディションの両方で作動するかを選択できます。(初期設定：ノーマル)

ホバリングピッチのモード選択

* 通常画面の状態、MODE キーを長押しして、設定画面のモードへ切替えてから次の設定を行います。

1 FUNC キーで SWSH 設定画面を呼び出す。



2 SELECT キーを押して、モード設定画面を呼び出し、DATA レバー+または-を長押しして、モードを変更します。



- NOR：ノーマルコンディションでのみ作動。
- N/I：ノーマルおよびアイドルアップコンディションで作動。

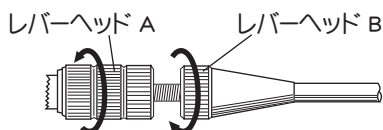
* 設定が終了したら、END キーを長押しして、通常画面に戻します。

その他の機能の使い方

ノンスリップアジャスタブルレバーヘッド

スティックのレバーヘッドの長さを調整できます。

- 1 矢印の方向にまわすとレバーヘッド A および B のロックが外れます。
- 2 一番操作しやすい長さにセットして、矢印と逆の方向にロックしてご使用ください。



送信機用充電バッテリー

この T6J 送信機は乾電池仕様 (工場出荷時) となっておりますが、別売の送信機用ニッケル水素電池 HT5F1700B またはリチウムフェライト電池 FT2F2100B がご使用可能です。

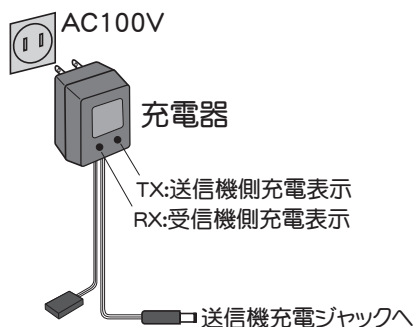
- 上記の電池に変更する場合は、下記の改造を行ってください。
 1. バッテリーカバー内側の乾電池押さえ用リブ (4 列) の 3 つの山をニッパー等を使用してカットしてください。
 2. 送信機裏ケースの 4 本のビスを外して、裏ケースを開け、乾電池用の電池接点を取り外してください。
- 対応する充電器をご使用ください。HT5F1700B 対応充電器：HBC-3A(4)、FT2F2100B 対応充電器：LBC-4E5
HT5F1700B をご使用の場合は下記の方法で、また、FT2F2100B をご使用の場合は充電器に付属の説明書の指示に従って充電を行ってください。

HT5F1700B の充電方法

* 充電器 HBC-3A(4) で充電する。

- 1 充電器の送信機側コネクタを送信機の充電ジャックに接続する。
- 2 充電器を AC100V のコンセントに接続する。
- 3 充電表示の LED が点灯することを確認する。
- 4 充電が終わったら充電器をコンセントから抜く。

● 充電時間：15 時間



警告

⊘ 専用充電器は AC100V 以外の電源コンセントには絶対に使用しない。

■ AC100V 以外のコンセントに差し込むと、異常発熱、発火等により、ヤケド、火災等を引き起こします。

⚠ プロポ用ニッケル水素電池の充電は、専用充電器またはプロポ用の急速充電器を使用する。

■ 規定値を越える充電は、異常発熱、破裂、漏液等により、ヤケド、火災、ケガ、失明等を引き起こします。

注意

⚠ 専用充電器を使わないときは、電源コンセントから抜いてください。

■ 異常発熱等による事故を防止するため。

参 考

規格

*仕様・規格は予告なく変更することがあります。

送信機 T6J-2.4GHz

(飛行機用送信機/ヘリ用送信機)

2スティック、S-FHSS/FHSS-2.4GHz方式、6チャンネル
通信方式：単向通信
アンテナ：内蔵式
使用電源：6V (単3乾電池4本)
消費電流：約120mA

受信機 R2006GS

S-FHSS/FHSS-2.4GHz方式(自動認識)、6チャンネル
アンテナ：ダイバーシティ方式
定格電圧：3.7～7.4V (使用可能電圧範囲：3.5～8.4V)

* BEC電源を使用する場合、容量がご使用のサーボ等の条件に合っていることが必要です。また、乾電池は使用しないでください。誤動作の原因となります。

* バッテリーF/S電圧は4セルニッカド/ニッケル水素バッテリー用に設定されています。その他バッテリーを使用の場合、バッテリーF/S機能は適正に動作しません。

サイズ：25.0×43.1×8.8mm
重量：8.5g

(推奨サーボ)

サーボ S3003

(スタンダードサーボ)

出力トルク：3.2/4.1 kg・cm (4.8/6 V時)
動作スピード：0.23/0.19 sec/60° (4.8/6 V時)
サイズ：40.4 × 19.8 × 36 mm
重量：37.2 g

サーボ S3114・・・小型電動飛行機・ヘリ

(マイクロサーボ)

制御方式：パルス巾制御
使用電源：4.8Vまたは6.0V (受信機と共通)
出力トルク：1.5kg・cm (4.8V時)
動作スピード：0.1sec/60° (4.8V時)
サイズ：21.8×11.0×19.8mm 重量：7.8g

サーボ S3157・・・小型電動ヘリ

(マイクロ・デジタルサーボ)

制御方式：パルス巾制御
使用電源：4.8Vまたは6.0V (受信機と共通)
出力トルク：1.5kg・cm (4.8V時)
動作スピード：0.1sec/60° (4.8V時)
サイズ：21.8×11.0×23.2mm
重量：8.3g

⚠ 注意

❗ 送信機、受信機、サーボ、FETアンプ、電池その他オプションパーツは必ず Futaba 純正品の組み合わせで使用する。

■ Futaba 純正品以外との組み合わせにより発生した損害等につきましては、弊社では責任を負いません。取扱説明書およびカタログに記載されているものを使用してください。

オプションパーツ (別売)

別売のオプションパーツとしては、次のものが用意されています。詳しくは弊社カタログをご参照ください。

送信機用バッテリー & 充電器

■ニッケル水素電池

種別	型名	電圧 (V)	容量 (mAh)	寸法 (mm)	重量 (g)	用途
送信機用	HT5F1700B	6.0	1700			T6J-2.4GHz 用、他

(専用充電器)

型名：**HBC-3A(4)** チャージャー

Futaba 送信機ニッケル水素電池充電用。

(Tx：1700mAh)

(充電方法は 71 ページ)

(プロポ用急速充電器)

型名：**CR - 2000** チャージャー

Futaba 送受信機ニッカド/ニッケル水素電池各種およびグローブスター電池充電用。

● 12V 入力 (シガープラグ付)、オートカット方式

■リチウムフェライト電池

種別	型名	電圧 (V)	容量 (mAh)	寸法 (mm)	重量 (g)	用途
送信機用	FT2F2100B	6.4	2100			T6J-2.4GHz 用、他

(専用充電器)

型名：**LBC-4E5** チャージャー

Futaba リチウムフェライト電池充電用。

トレーナーコード

接続相手の送信機に合わせてトレーナーコードをお選びください。(44 ページ参照)

延長コード

サーボの接続コードを延長したいときに使用します。

型名：**延長コード 100 mm / 200 mm / 400 mm / 500 mm**

* 延長コードには標準タイプ、軽量タイプ (マイクロサーボ用)、大電流 50 芯タイプ (デジタルサーボ用) があります。

フックバンド

フックバンドで送信機を首から吊るして使用すると、腕への負担が少なくなり、安定したスティック操作が可能となります。

型名：**フックバンド**

スティックレバーヘッド

型名：**ブルーアルマイトレバーヘッド / 金属製 (上・下)**

(取扱方法は 71 ページ)

受信機側スイッチ

型名：**SSW-J (充電口付スイッチ)**

用語説明

この説明書に使用されている略号等の用語について五十音順に簡単に説明します。

1/2 波長ダイポールアンテナ

2.4GHz 送信機のアンテナは 1/2 波長 (λ) ダイポールアンテナが採用され小型化・軽量化が図られています。

FASST システム

Futaba Advanced Spread Spectrum Technology の略。Futaba 2.4GHz 製品を示します。スペクトル拡散方式 (SS 方式)、固有の ID コード、その他 Futaba 独自の技術が採用されています。

FHSS システム

Futaba Frequency Hopping Spread Spectrum の略。Futaba 2.4GHz 製品を示します。スペクトル拡散方式 (SS 方式)、固有の ID コード、その他 Futaba 独自の技術が採用されています。

アップ

(飛行機) 上げ舵の意味で、普通エレベーターの後縁が上に向く方向です。

(ヘリ) ホバリングではヘリを後退させ、高速では機体を上昇させます。スワッシュプレートの機首側が上がる方向。

エルロン

(飛行機) 主翼の左右にある補助翼のことです。通常旋回の制御をします。

(ヘリ) ローターディスク面を左右に制御し、左右の傾きを直したり、旋回を行ったりします。

エレベーター

(飛行機) 水平尾翼にある昇降舵のことです。通常上昇 (アップ)、下降 (ダウン) の制御をします。

(ヘリ) ローターディスク面を前後に制御し、前後の傾きを直したり、上昇 (アップ)、下降 (ダウン) の制御をします。

キット

組立用に加工された部品がセットされたもの。

ギヤ

飛行機の引き込み脚のこと。5ch 目スイッチで操作します。

サーボホーン

サーボの軸に取り付けられ、サーボの回転運動を直線運動に変えて、ロッドに伝えるためのもので、様々な形状のものがある。

サーボマウント

サーボを機体に取り付けるための機体側の台。

スティック

送信機についている操縦するための棒状のもの。

スロットル

エンジンの吸入口にある混合気の制御部のことです。開けると (スロットルハイ側) 混合気が多く吸い込まれてエンジンの回転数は上がり、閉じると (スロットルロー側) 下がります。

ダイバシティ方式アンテナ

2つのアンテナで常に受信状態が良い方の信号を自動

的に選択する方式で、適正な搭載方法により、機体姿勢に関係なく良好な受信状態が保たれます。

ダウン

アップの反対。

(飛行機) 下げ舵の意味。普通エレベーターの後縁が下に向く方向です。

(ヘリ) スワッシュプレートの機首側が下がる方向。

チャンネル

コントロール系統の数を表します。別の表現では、いくつかのサーボを動作させられるかということになります。

トリム

飛行機やヘリの安定飛行のための各舵のニュートラル微調整装置のことで、飛行機やヘリのくせを修正する機構。

ニュートラル

中立という意味。送信機のスティックの場合、操作していないときの中立に戻った状態をいう。

ノーマル

サーボリバース機能の場合、ノーマル側 (正転側) というふうに使います。反対はリバース側 (反転側)。

ピッチ

(ヘリ) コレクティブピッチと呼ばれ、機体を上昇、下降させます。エンジンの出力に合わせて設定します。

フラップ

(飛行機) 主翼後縁にある下へ可動する部分。通常は着陸時など低速時に揚力を増加させるためのもの。

プロポ

現在のラジコンは、スティック操作に比例 (プロポーション) してサーボが動くことから、ラジコン装置のことをプロポという。

ラダー

(飛行機) 垂直尾翼にある方向舵のことです。

(ヘリ) テールローターのピッチを制御します。通常テール側から機首を見て、左右方向を決めます。旋回するときに使用します。

ラジコン

ラジオコントロールを略したもので、無線操縦のこと。

リバース

サーボリバース機能の場合、リバース側 (反転側) というふうに使います。反対はノーマル側 (正転側)。

リンク操作

2.4GHz システムの送信機と受信機のペアリングのための操作。送信機の ID コードが受信機に読み込まれ、使用可能となります。これにより、他の送信機からの信号で動作することはありません。

リンケージ

サーボと機体の舵の間をつなぐ連結機構のこと。

ロッド

サーボと機体の舵の間をつなぐ棒のこと。

修理を依頼されるときは

修理を依頼される前に、もう一度この取扱説明書をお読みになって、チェックしていただき、なお異常のあるときは、次の要領で修理を依頼してください。

< 依頼先 >

お近くの Futaba ラジコンカスタマーサービスセンターまで修理依頼してください。

< 修理の時に必要な情報 >

トラブルの状況をできるだけ詳しく書いて修理品と一緒に送ってください。

- 症状 (トラブル時の状況も含めて)
- 使用プロポ (送信機、受信機、サーボの型番)
- 搭載機体 (機体名、搭載状況)

- 修理品の型番及び個数

- ご住所、お名前、電話番号

< 保証内容 >

セットに添付の保証書をご覧ください。

- 保証書の範囲内で修理をお受けになる場合は、修理品と一緒に保証書を送付してください。

< 本製品に関するご質問、ご相談 >

お近くの Futaba ラジコンカスタマーサービスセンターまで。

Futaba ラジコンカスタマーサービスセンター

修理・アフターサービス、プロポに関するお問い合わせは弊社ラジコンカスタマーサービスセンターへどうぞ。

< 受付時間 / 9:00 ~ 12:00 ・ 13:00 ~ 17:00、土・日・祝日・弊社休日を除く >

■ 双葉電子工業 (株) ラジコンカスタマーサービス

〒 299-4395 千葉県長生郡長生村藪塚 1080

TEL.(0475)32-4395

■ 双葉電子工業 (株) 関西地区ラジコンカスタマーサービスセンター

〒 577-0016 大阪府東大阪市長田西 3-4-27

TEL.(06)6746-7163

T6J-2.4GHz (ACRO) データシート

機種名:		モデルNo.										モデルネーム:									
				1CH	2CH	3CH	4CH	5CH	6CH			SW									
EPA	舵角調整	(左/ダウン/ハイ)										%									
		(右/アップ/ロー)											%								
D/R	デュアルレート	(UP)										%	A・B・C・D								
		(DN)										%									
EXPO	エクスポネンシャル	(UP)										%									
		(DN)										%									
REVR	サーボリバース			N・R	N・R	N・R	N・R	N・R	N・R	N・R											
TRIM	トリム											%									
STRIM	サブトリム											%									
												%									
F/S	フェールセーフ			N・F	N・F	N・F	N・F	N・F	N・F	N・F											
												%									
PMX1	プログラムミキシング 1	ON・INH		マスターCH: レート: %				スレープCH: スイッチ:													
PMX2	プログラムミキシング 2	ON・INH		マスターCH: レート: %				スレープCH: スイッチ:													
FLPR	フラップロン	ON・INH		レート: %		2nd エルロン:															
FLTR	フラップトリム	ON・INH		レート: %																	
V-TL	Vテール	ON・INH		CH2レート: %			CH4レート: %														
ELVN	エレボン	ON・INH		CH1レート: %			CH2レート: %														
T-CV	スロットルカーブ	ON・INH		P 1	P 2	P 3	P 4	P 5					SW								
				%	%	%	%	%	%												
P-CV	ピッチカーブ	ON・INH		P 1	P 2	P 3	P 4	P 5													
				%	%	%	%	%	%												

T6J-2.4GHz (HELI) データシート

機種名:		モデルネーム:									
モデル No.		モデルネーム:									
		1CH	2CH	3CH	4CH	5CH	6CH			SW	
EPA	舵角調整	(左/ダウン/ハイ)								%	
		(右/アップ/ロー)								%	
D/R	デュアルレート	(UP)								%	A・B・I-DL
		(DN)								%	
EXPO	エクスポネンシャル	(UP)								%	
		(DN)								%	
REVR	サーボリバース		N・R	N・R	N・R	N・R	N・R	N・R	N・R		
TRIM	トリム									%	
STRIM	サブトリム									%	
F/S	フェールセーフ		N・F	N・F	N・F	N・F	N・F	N・F	N・F		
										%	
N-TH	ノーマルスロットルカーブ		P 1	P 2	P 3	P 4	P 5				
			%	%	%	%	%	%			
N-PH	ノーマルピッチカーブ		P 1	P 2	P 3	P 4	P 5				
			%	%	%	%	%	%			
I-TH	アイドルアップスロットルカーブ	ON・INH	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5				SW
			%	%	%	%	%	%			C・A・B
I-PI	アイドルアップピッチカーブ		P 1	P 2	P 3	P 4	P 5				
			%	%	%	%	%	%			
HOLD	スロットルホールド	ON・INH	RATE : %								
H-PI	ホールドピッチカーブ		P 1	P 2	P 3	P 4	P 5				
			%	%	%	%	%	%			
REVO	リボリューション MIX	ON・INH	Lo RATE : %			Hi RATE : %					
GYRO	ジャイロ MIX	ON・INH	Up RATE : %			Dn RATE : %					SW
											A・B・I-DL
SW-T	スワッシュ→スロットル	ON・INH	AIL	ELE	RUD						
			%	%	%						
RING	スワッシュリング	ON・INH	RATE : %								
SWSH	スワッシュ (AFR)	MODE :	MODE :	AIL	ELE	PIT					
		H-1	HR-3・H-3・HE3	%	%	%					
DELY	ディレイ	ON・INH	CH 3	CH 6							
			%	%							
HOVP	ホバリングピッチ	ON・INH	MODE : NOR ・ N / I								



Futaba[®]